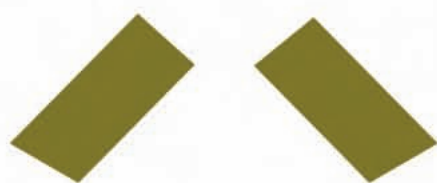


箱膳から「ハコモノ」まで



展

私たちの身の回りのあらゆる場面で存在する「箱」。箱は人類最大の発明であるという人もいます。今回の展覧会では、さまざまな素材やかたち、用途や機能を持つ箱の世界を、収蔵資料を中心に紹介するほか、今を生きる人々がふだんの暮らしの中で、いとおしく魅せられた箱、思い出の詰まった箱なども展示します。展覧会を通して「作る」「使う」「楽しむ」「愛でる」など、箱に込められた思いに触れ、分かち合うきっかけとなれば幸いです。

また、「ハコモノ」といわれる博物館。その内部で用いられている様々な箱を紹介しながら、さらに情報集積やインターフェイスのハコという観点から、これからのミュージアム像についても思いを馳せます。

## 目次

|    |                |
|----|----------------|
| 1  | はじめに           |
| 3  | 「ハコ」を見る        |
| 18 | 「ハコ」を楽しむ       |
| 34 | 「ハコ」を考える       |
| 58 | おわりに           |
| 59 | 関連行事           |
| 64 | 展示へのコメント・メッセージ |
| 65 | 展示リスト          |
| 76 | 参考文献           |
| 77 | 謝辞             |

## 凡例

- 1 本書は、令和四年（二〇二二）七月一六日から同年八月二八日まで開催の『「ハコ展」』箱膳から「ハコモノ」まで』の記録集として作成しました。
- 2 本書には、展示資料及び展示図版の一部を掲載しています。ただし、写真の一部には、参考資料として掲載したものがありません。
- 3 本書の構成はおおむね展示構成に対応していますが、全ての展示資料を紹介するものではありません。
- 4 本書に掲載した資料写真に付した番号は、巻末の展示リストの番号と対応しています。
- 5 『「ハコ」を楽しむ』では、来館者の方からお借りし、会期中展示したハコを掲載しています。
- 6 本書の企画・編集は美濃加茂市民ミュージアム館長・可児光生、学芸員・藤島夢花、岩屋孝志が行いました。



私たちはさまざまな「ハコ」とともに日々を暮らしています。そこに存在する「ハコ」を、人とのかわり方によって分類し、展示します。

生活の中で人々が「ハコ」にどのような思いを込めていたのか。「ハコ」のあり方とともに人々の息遣いを感じてください。



## 【「ハコ」で味わう】

「ハコ」の上に食べ物を盛りつけた器を置いて食事をしたり、「ハコ」の中に食べ物を盛りつけたりして食事を楽しむこと。

【参考】食べ物を味わうために考えられた「ハコ」には箱膳やキリダメ、重箱などがある。かつて、食べる楽しみは「ハコ」と共にあった。

## 暮らしの中の箱膳

箱膳とは一人分の食器がしまわれている箱で、食事のときには蓋を裏返して箱の上に乗せ、そこに食器を置いて膳として使いました。食事の後はお湯やお茶を食器に注ぎ、たくあんなどで拭ききれいにしてから箱膳の中に食器を戻しました。水が貴重な時代、食器を洗うのは一週間に一度程度だったようです。明治期に全国的に使われるようになり、昭和三〇年代頃、ちやぶ台の普及とともにだんだんと使われなくなっていました。

## 箱膳の来た道

箱膳を裏返してみると、底に商標の印が押されているものに出会うことがあります。今回展示している、美濃加茂市域で使われていた箱膳の中には「伊勢山田市」や「伊勢山田河崎町」と記された商標が押された箱膳があり、現在の三重県伊勢市河崎で作られたものであることがわかります。河崎ではかつて伊勢春慶と呼ばれる春慶塗の漆器が盛んに作られました。河崎で作られた箱膳は勢田川の水運で伊勢湾から全国各地へ届けられました。



箱膳（館蔵）



箱膳（ハコを味わう14）



高橋余一「生活絵巻」(部分)

### 【右の絵の文章】

お膳箱  
小豆色の漆塗り  
飯台という便利な奴があるにハあったが家族一人一人が持つてゐた茶碗入れ  
お嫁さんが来るとムコの方で用意してある

## 伊勢春慶

現在の三重県伊勢市河崎を中心に、かつて盛んに作られた春慶塗の漆器を伊勢春慶と呼びます。春慶塗とは、紅色または黄色で色付けした木地に透明な透漆を施した漆塗りの技法で、木目が美しく透けて見えるのが特徴です。

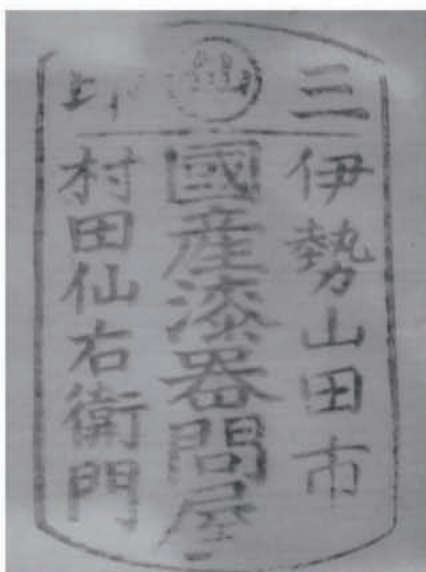
伊勢春慶は室町時代にはじまるといわれ、明治時代には船で全国に出荷されていました。特に伊勢湾の対岸にある知多半島をはじめとした愛知県の地域とは多くの取引があったようです。

## 伊勢春慶の商標

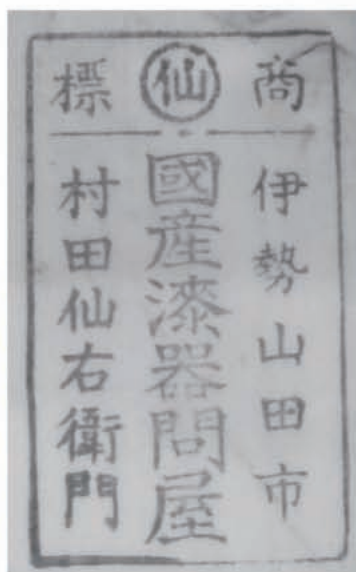
伊勢春慶は『伊勢市史』によれば明治時代の内国勸業博覧会で「粗ナリト謂エドモ廉価ニテ堅固」と評価されており、安価で丈夫な伊勢春慶は人々の日常の暮らしの中で愛用されてきました。

主な製品としては、箱膳、重箱、弁当箱、キリダメ（切溜）などがあります。

製品には伊勢の漆器問屋の商標印が押されました。今回展示している箱膳やキリダメにも商標印のあるものがあり、卸した問屋や、漆器が作られた時期を知ることができます。



重箱の商標（ハコを味わう22）



キリダメの商標（ハコを味わう26）



箱膳の商標（ハコを味わう14）

## 三重県伊勢市河崎

三重県伊勢市河崎は勢田川の水運によって栄えた商業の中心地で、伊勢春慶は明治一〇年代ごろからこの地に拠点を置きました。河崎では、勢田川の上流沿いに向かって右岸に、漆器などさまざまな品物を扱う問屋が立ち並び、川の対岸に職人たちが多く暮らしました。

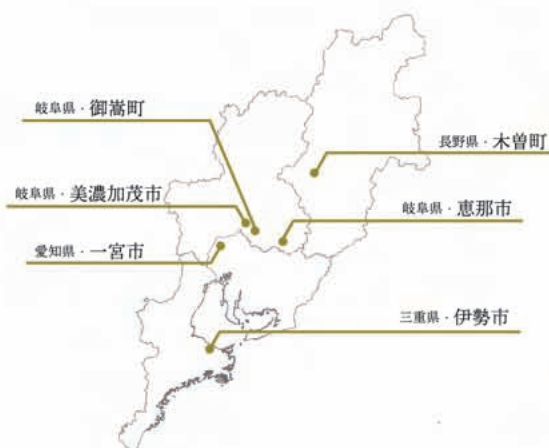
河崎では江戸・明治時代に建築された商家が伊勢河崎商人館として公開されており、当時の勢田川沿いに立ち並んだ商家の面影を感じることができます。



勢田川（三重県伊勢市）

## 美濃加茂市周辺の地図

出典 | 国土地理院



## いろいろな春慶

春慶塗は和泉国(大阪府)堺の漆職人・春慶が応永年間(一三九四～一四二八)に創始した技法で、飛騨春慶、能代春慶、伊勢春慶など全国各地で作られています。春慶塗は日常の漆器として広く人々に愛用されてきました。

美濃地方東部には、長野県木曽郡木曽福島町(現在の木曽町)の八沢地区で作られた春慶塗の膳や弁当箱等の製品が残されています。伊勢の製品だけでなく、木曽の製品も使われていたことがあります。

## 木曽春慶

木曽福島(八沢地区)で作られた漆器は木曽春慶とも呼ばれ、中世の応永年間(一三九四～一四二七)には既に生産がおこなわれていたとされます。板を曲げて作る曲物製品と批目(木を削った面)を活かして作られる製品が特色です。

主な製品は、メンバ(大形の弁当箱)、湯桶、重箱、膳、弁当箱、キリダメ(切溜)など。牛馬を使った陸運と木曽川の水運を併用して東海地方を中心に各地へ出荷していました。



## 長野県木曽郡木曽町福島八沢

木曽春慶の中心地である長野県木曽福島町(現在の木曽町)の八沢地区。木曽松を利用した松物細工が古くから発達していました。八沢には漆を塗る前の木の器を作る木地屋や漆を塗り製品を販売する塗師屋が建ち並び、天保一四年には町並み四六軒のうち、二九軒が漆器制作に携わっていたとされます。現在でも、数件の漆器店が残っています。八沢で作られた面桶、弁当箱、重箱、膳は岐阜県でも多く販売されていました。



海老屋(長野県 木曽町)

## 重箱<sup>じゅうばこ</sup>

種々の料理を入れる器。同じ大きさの箱を重ね一番上に蓋をしました。重ねる段数によって二段重、三段重、五段重などの種類があります。お祝いの際には赤飯を詰めて配られることが多くありました。貰った側は空になった重箱にマッチを入れて返す風習があったようです。



重箱（ハコを味わう22・23）

## キリダメ

祝い事や仏事など多くの人が集まるときに、煮物などの料理や食材を入れる容器として利用しました。  
美濃加茂市域では、作ったおはぎやお餅を保存したり、茹でたうどんを一人前ずつ分けて入れることもありました。料理を器にとりわけ、器ごとキリダメに入れておくこともあったようです。



キリダメ（ハコを味わう27）

## キリダメ（入れ子）<sup>いれこ</sup>

箱と蓋がそれぞれ入れ子状になっていて、ひとつずつに蓋をかぶせることでできる「かぶせ蓋」になっているのが特徴の箱です。地域によってはこれを「入れ子」と呼びますが、キリダメと総称されることもあります。入れ子の数によって三つ入れ、五つ入れ、七つ入れなどの種類があります。中に入れるものに合わせた大きさを選んで使うことができました。



キリダメ（入れ子）（館蔵）



## 【「一」に入れる】

しまい込むほどではなく、いったんどこかへ置いておきたいものを「ハコ」の中に一時的に移動させておくこと。

● これらの「ハコ」の中に入れたものは目的に合わせていづれ取り出される。そのため、この「ハコ」は中におさまられるものにとって本来の収納場所ではない。



## 【「一」を使う】

あるものを作ったり、あることをしたりするための道具として専用の「ハコ」を用いること。

● 調理器具や電化製品などには「ハコ」の形をしているものが多い。



サバ寿司の箱（ハコを使う4）

## 大仲寺のサバ寿司祭り

美濃加茂市蜂屋町大仲寺の神明神社で行われる「サバ寿司祭り」で鯖寿司を作るための道具。この寿司は、丸くおにぎりにした酢飯を鯖で挟み、みょうがの葉に包んで木箱に詰め、上から重しをして作りました。重しは昔は六〇キロの米俵を使っていたそうですが、その後ジャッキやコンクリートブロックへと変化してきました。一箱に二〇個ほどの鯖ずしが入ります。しっかりと押した鯖寿司は、水分が出て、もちもちのお寿司になったそうです。



箱枕（ハコを使う6・7・8）

## 「箱枕」とは

はこまくら

箱枕とは箱の形に作られた枕のこと。小枕という「括り枕」を和紙に包み取り付けて、布団の外に置いて使われました。このような高い枕は髷を結った髪型が崩れないように考案されたもので、頭部ではなく首筋にあてがいます。明治以後、断髪になると敷布団の上に置き、次第にその高さが低くなり、戦前頃まで使われました。枕の形の変化も、人の暮らしの在り方を反映しています。



## 【一にしまう】

「ハコ」の中に使わないものや使い終わったものを片付けること。「ハコ」を収納場所として使用すること。「収める」「納める」はどちらも「おさめる」と読むが、それぞれ「残す」「それで終わりとする」という意味あいがある。

参考

収納のための「ハコ」には中に納めたものが傷ついたりしないように保護・管理するための工夫が施されているものもある。また、初めから中にしまうものが決まっており、そのものの専用に作られる「ハコ」もある。

## 婚礼にも使われた長持

こんれい

つか

ながもち

長持とは、主に衣類や寝具を入れた横に長い大型の収納具のこと。室町時代に調度品や衣類など持ち物が多くなり、江戸時代には木綿の普及で布団などの寝具が大きくなったため、より大型の長持が出現しました。江戸時代中期に庶民に普及して、多く用いられるようになりました。また嫁入り道具の代表でもあり、婚礼の際には担ぎ手によって「長持歌」が歌われました。



長持（ハコにしまう26・27）

旧古井村田畑組

# 「封じ込み書類」箱

箱の中には、一〜一六号にまとめられた書類（明治五年から明治四四年）が封入されており、蓋が釘で打ち付けられています。書類の内容は、組の収支明細帳、神社建築資料、小作米取立帳、共有地規約書、演劇資料などです。明治期の田畑組の書類を永久保存するために、役員立ち合いのもと、この箱に厳重に封入されたと思われます。

箱の右側面には製作日、代金（一五銭）、製作者が、左側面に当時の玄米の代金が墨書されています。



旧古井村田畑組「封じ込み書類」箱（ハコにしよう13）

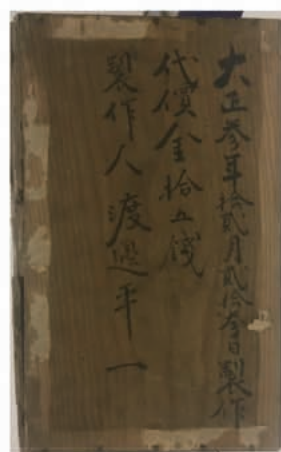
## 【箱の蓋】

「田畑組封込ミ書類等第老號封ヨリ第拾六號迄此箱中へ納入」  
 「大正参年拾貳月貳拾参日」  
 「支配人高橋勝五郎宅ニ於テ左ノ役員立會セリ、組帳・高橋庄五郎、支配人・高橋勝五郎、評議員・井戸市重、大梅兼五郎、高橋友七、高橋開治、高橋太七、渡邊平一、山口兼助、山田伊三郎、高橋道助」



## 【箱の右側面】

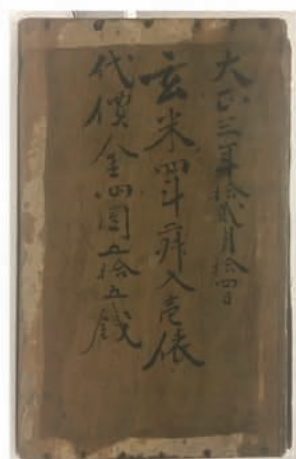
「大正参年拾貳月貳拾参日製作、代價金拾五銭、製作者人渡邊平一」



## 【箱の左側面】

「大正三年拾貳月拾四日、玄米四斗二升入老俵、代價四圓五拾五銭」

いまの値段に換算すると700円程度





藤行李（ハコにしまう14）

## 行李こうり

竹や柳、藤で編まれた葛籠の一種。素材によって柳行李、竹行李、藤行李と呼ばれます。普及したのは江戸時代に入ってからで、衣類や身の回りのものをしまい、運ぶのに使われました。痛みやすい角や縁の部分には、補強のため布や皮が縫い付けられています。行李は暮らしの必需品のひとつでした。



行李（ハコにしまう15）

## いつも身近に安心をみぢか あんしん

置き薬を入れておく薬箱は、必要な時にすぐ使うことができ、薬局が身近になかった時代、暮らしに安心をくれる大切な箱でした。年に一、二回やってくる配置員に、使った薬の代金だけを支払います。このような仕組みを「先利用後利」といいます。

薬箱の中には当時の薬の伝票やおまけの紙風船も残されています。箱の側面に薬の名前と個数が書かれているものもあり、各々の家庭の暮らしに合わせた薬が常備されていたことがわかります。



薬箱（ハコにしまう19）



## 薬箱の中身

|    | 名前       | 効能効果      | 数量       |
|----|----------|-----------|----------|
| 1  | エスビラ糖衣錠A | 総合かぜ薬     | 15包      |
| 2  | ラクチンA    | 強力鎮痛解熱良効剤 | 19包      |
| 3  | 熊膽丸      | 健胃鎮痛      | 3包       |
| 4  | せきどめ顆粒A  | せきどめ      | 2包       |
| 5  | アナトミン    | 鎮痛解熱剤     | 3包       |
| 6  | 直熱とり散    | 鎮痛解熱      | 2包       |
| 7  | バステルV    | 肩こりの痛みなどに | 1箱       |
| 8  | カットパンA   | 救急絆創膏     | 2箱       |
| 9  | ストップ     | くさり止め     | 1包（開封済み） |
| 10 | コリイソゾル   | 消炎沈痛塗布剤   | 1本       |
| 11 | メンタム     | 切り傷などに    | 1つ       |
| 12 | 領収証      | —         | 57枚      |



薬箱（ハコにしまう20）

## 薬箱の中身

|   | 名前         | 効能効果   | 数量 |
|---|------------|--------|----|
| 1 | 御岳山 百草     | 胃痛・腹痛に | 1袋 |
| 2 | 体温計        | —      | 1つ |
| 3 | ピンセット・金属   | —      | 1つ |
| 4 | ピンセット・竹    | —      | 1つ |
| 5 | とげぬき       | —      | 1つ |
| 6 | 包帯         | —      | 2つ |
| 7 | マンネンタケの仲間カ | 漢方     | 1つ |



薬箱（ハコにしまう21）

## 薬箱の中身

|   | 名前      | 効能効果 | 数量  |
|---|---------|------|-----|
| 1 | 大正漢方胃腸薬 | 胃腸薬  | 1袋  |
| 2 | 熊膽丸     | 健胃鎮痛 | 1包  |
| 3 | 紙風船     | おまけ  | 1つ  |
| 4 | 領収証     | —    | 29枚 |



薬箱（ハコにしまう24）



## 【一で運ぶ】

ある場所からよそへと移動させたいものを箱に入れて運搬すること。

【参考】移動中に中のものが壊れないように「ハコ」を使用したり、細かなものをまとめて運びやすいように「ハコ」に入れたりする。

運ぶための「ハコ」には運搬がしやすいように取っ手や肩ひも等が取り付けられているものもある。

## 召集令状が届くまで

しょうしゅうらいじょう とど

戦時中、各村役場では予備軍人に対する召集令状をいち早く本人の手もとに届けるため、臨時の使丁（用務員）を雇いました。陸軍発行の令状は最寄りの警察署の金庫に保管され、動員令が出されると警察官が町役場にこれを持参し、役場の使丁が本人に手渡しで交付します。使丁の契約条件には「一時間に一里半（約6km）走れる者」などと、細かい規定が設けられ、いかに「早く」、「確実に」届けることが重要だったことがわかります。



召集用状箱（ハコで運ぶ16）

## 【召集用状箱の側面】（ハコで運ぶ16） 使丁心得書

- 一 此状箱ヲ携帯スルモノハ召集令状及ビ召集令達ヲ交付スル使丁トス
- 一 召集用使丁ハ最モ急速ヲ要スベキニ付一時間一里半以上ノ速度ヲ以テ進行スベシ
- 一 召集用務ハ最モ大切ナルモノニ付鄭重ニ之ヲ取扱ヒ、遺失其他粗漏ナキ様特ニ注意スベシ
- 一 使丁途中ニ於テ疾病其ノ他事故ニヨリ使命ヲ果タシ得ザル場合ニハ速力ニ警察官吏又ハ町村役場ニ届出ツベシ
- 一 使丁召集令状等送達途中渡船場通過ノ際遅滞ノ虞アル場合ニハ速力ニ渡船手續キヲ求ムベシ
- 一 令状及ビ令達ヲ送達シタルトキハ受領者ヨリ令状ニアツテハ受領証令達ニ在ツテハ封筒表面受領時刻ノ區畫ニ各年月日時ヲ記入捺印ヲ求ムベシ若シ本人不在ニシテ他人代ワリテ受領シタルトキハ該受領者ノ記名捺印ヲ求メ持チ歸ルベシ
- 一 使丁送達ヲ了レバ速力ニ帰還シテ其受領証又ハ封筒ヲ掛員ニ差出スベシ

## 【一に詰める】

「ハコ」の中に物をいっぱいに入れること。

**参考** 品物を詰め込み出荷・輸送に使う「ハコ」はそれぞれの品物に合わせた大きさと作られ、箱の側面に品物名を記すこともあった。



## 便利な箱 べんり はこ

明治時代、鉄道の発達に伴い、物資や品物の輸送に木箱が利用されるようになります。こうした木箱は特に本棚や勉強机として、人々の普段の暮らしの中でも活用されてきました。

特に茶箱は、茶葉を虫や湿気から守るため、箱の内側に紙を張って湿を引いたり、ブリキ板が貼られたりしています。そのため現代においてはひな人形や衣類の収納、コーヒー豆の保存などに用いられています。



茶箱（ハコに詰める3）

## ひと昔前の遺物管理 ひかしまえ いぶつかんり

戦前、考古学専用の道具たちが日本になかった時代、出土遺物の保管方法は様々で、多用されたのが、従来からある地域の木箱でした。たとえば静岡県では保存性の高さから茶箱が、東北地方など海辺の地域ではトロ箱と呼ばれる魚保存用の木箱が、果樹の栽培が盛んな地域ではミカンやリンゴなどの果物用の木箱が使われていました。これらの箱に出土遺物を入れたり運んだりするのが発掘現場では当たり前の光景でした。



リンゴ箱（ハコに詰める1・2）

## 【一で売り出す】

品物を「ハコ」で包装・梱包し販売すること。

参考 「ハコ」には商品名や製造会社名などの情報が記載される。

「ハコ」を見た人がその商品を買いたくなるような、さまざまなデザインが施されている。商品の購入後、その商品を包んでいた「ハコ」はパッケージとしての役目を終えるが、そのまま品物をしまうための「ハコ」として利用される場合や、別の物を入れるための「ハコ」として再利用される場合がある。また、「ハコ」のデザインや中身の品物などがその品物を買った人の心に強く残ったときには、思い出の詰まった「ハコ」として大切に保管されることもある。

## はちやがき 蜂屋柿のパッケージ

美濃加茂市を代表する特産品・蜂屋柿。古くから都や幕府への献上品として評価を得てきました。選別された良質の蜂屋柿は箱に詰められ丁寧な梱包のうえ献上されていたことが、当時の記録からわかります。明治時代以降は名産「堂上蜂屋柿」として売り出されます。その化粧箱のパッケージは、改変を加えながらも現在まで引き継がれています。



蜂屋柿化粧箱（ハコで売り出す12）

Slow Food Japan

「味の箱舟」

堂上蜂屋柿

Dojohachiya-gaki

主な生産地：岐阜県美濃加茂市

上記は、スローフード協会により「味の箱舟」品目に認定されました。

2007年3月20日

スローフードジャパン 会長 若生祐典

「味の箱舟」認定書

## 【「をもう一度使う」】

一度役目を終えた「ハコ」にもとものと入っていたものとは異なるものを入れたりしまったりすること。

**参考** 思い出深く捨てがたい「ハコ」の場合、「ハコ」を捨てずに身近に置いておくために中にしまうものを探すようなこともある。

また、単に手近にあった「ハコ」にものをしまった結果、その「ハコ」に本来入っていたものよりも、後から入れたものの方がそこにしまわれる期間が長くなる場合もある。



## 錢箱から裁縫箱へ

錢箱とは小錢を入れる木箱で、江戸時代に商家などで使われていました。壊されることがないように鉄板や鋳が打ち付けられています。小錢をいれる穴があり、鍵もかかるようになっていました。ここに展示している錢箱は、その役目を終えた後、裁縫箱として長く持ち主の暮らしを支えていました。



裁縫箱として使われた錢箱（ハコをもう一度使う5）

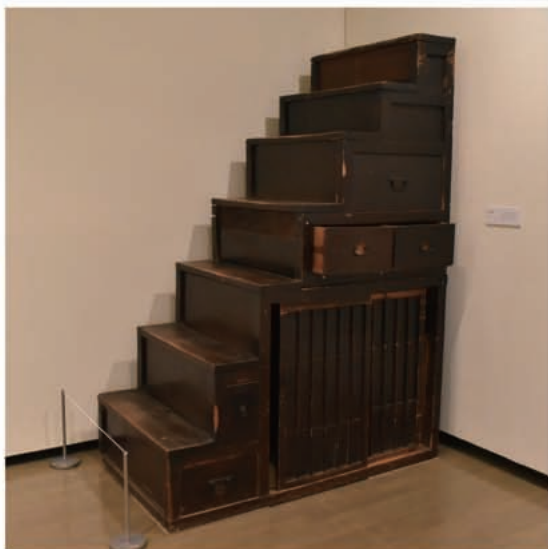
## 【鈴木源吾の——】

太田町出身の鈴木源吾（すずきげんご）（一九〇四―一九九八）が所持した「ハコ」で、美濃加茂市民ミュージアムに寄贈されたもの。

鈴木源吾は明治三十九年に太田で初めて写真館を開業した鈴木清次郎の長男。

戦後、国際的な経験を活かし、日本政府の特命全権公使としてワシントンで活躍した。その後、国際復興開発銀行、国際通貨基金（IMF）などの理事をつとめ世界的な業績を残した。





箱階段（ハコをさまざまに使う1）

## 【一をさまざまに使う】

一つの「ハコ」を複数の用途に使うこと。「ハコ」は多くの可能性を秘めており、いろいろな使い方ができる。

**参考** 具足櫃（ぐそくびつ）や箱びなの箱は、普段はものをしまうために使われているが、時期が来ると飾り台としても使われる。また、箱階段のように、階段でありながら、ものの収納にも使われるといった、同時に二つの役割を担う「ハコ」もある。

## 具足櫃 ぐそくびつ

甲冑を中に入れるための「ハコ」であり、運ぶための「ハコ」でもありました。また、甲冑を飾るときには、この具足櫃を、甲冑を飾るための台としても利用しました。

角の部分に金属板を貼った頑丈な作りになっています。側面には金属の持ち手が付けられています。



具足櫃（ハコをさまざまに使う2）

## 箱びな はこ

木箱に男びな、女びなが一体ずつ納められています。木箱には蓋がついていて、普段は雛をしまうための「ハコ」として使います。雛を飾るときには蓋を開け、箱ごと飾りました。箱には塗などの装飾はなく、簡素な作りになっています。



箱びな（ハコをさまざまに使う3・4）



みなさまからみのかも文化の森にお寄せ  
いただいた、暮らしの中で大切にしている愛  
着の箱、思い出のいっぱい詰まった箱、なぜ  
かどうしても捨てられない箱など展示して  
います。

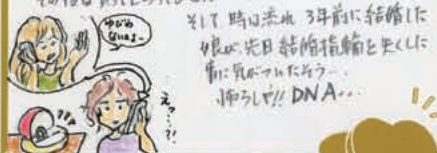
十人十色の思いが込められた「ハコ」をお  
楽しみください。



### 結婚指輪の箱

ハコに詰まった思い

平成元年に結婚した時の指輪の箱です。  
普段は外してお出掛けの時だけはおいておける。  
結婚10年を待たず紛失!!  
その後は買ってもらってません...



E.H (可児市)



### 富山の薬箱

ハコに詰まった思い

子どもの通、薬屋さんが 家へ訪問  
してくる。薬の使用を 確  
認に 神様に お願いした。  
その際に、紙7センチ 17センチ  
ので、薬箱に していきなり。

F.O (長浜市)



### 青い「カーボ」の箱

ハコに詰まった思い

一緒に働いていた友人が職場に遊びに来てくれた  
時、バレンタインにくれたチョコレートの箱が青い。  
その「カーボ」が気に入って、お返しを入れて使いました。  
もう一つは今年その友人と一緒に買った「カーボ」を買  
取した「カーボ」を。会うといつも元気でいる  
彼女との楽しい時間を思い出させてくれる  
大事な箱として、大切にしています。

Y.W (多治見市)

### 資料に関する情報

(お持ちいただいた物の使用されていた年代、思い出やエピソードなどお書きください)

・Coco Live Tour 2019 "Star Shauk Food Pot."

→ 品物を入った箱は、箱のデザインが、大抵は、アーティストの  
印象的なイラスト、貼られている。捨てた箱、大抵は、箱の  
デザインが、アーティストの、デザインが、アーティストの、  
デザインが、アーティストの、デザインが、アーティストの、

・Michael Berlin お菓子の箱

→ お菓子の箱は、大抵は、箱のデザインが、大抵は、箱の  
デザインが、アーティストの、デザインが、アーティストの、  
デザインが、アーティストの、デザインが、アーティストの、  
デザインが、アーティストの、デザインが、アーティストの、

・その他

→ 箱のデザインが、大抵は、箱のデザインが、大抵は、箱の  
デザインが、アーティストの、デザインが、アーティストの、  
デザインが、アーティストの、デザインが、アーティストの、  
デザインが、アーティストの、デザインが、アーティストの、

備考 箱のデザインが、大抵は、箱のデザインが、大抵は、箱の  
デザインが、アーティストの、デザインが、アーティストの、  
デザインが、アーティストの、デザインが、アーティストの、  
デザインが、アーティストの、デザインが、アーティストの、

箱のデザインが、大抵は、箱のデザインが、大抵は、箱の  
デザインが、アーティストの、デザインが、アーティストの、  
デザインが、アーティストの、デザインが、アーティストの、  
デザインが、アーティストの、デザインが、アーティストの、

箱のデザインが、大抵は、箱のデザインが、大抵は、箱の  
デザインが、アーティストの、デザインが、アーティストの、  
デザインが、アーティストの、デザインが、アーティストの、  
デザインが、アーティストの、デザインが、アーティストの、





藤田喬平「フジヲハコ」銘 紅白梅

1992年02月

## ハコに詰まった思い

常に魂張りにいた母の姿は、私の思い出の一つ。  
 16年ほど前に来て東北の秋田にある「森田喬半  
 美術館」を訪れた時、森田さんの社長の名の一つ  
 である「魂張子」の中に母親を感じると同時に、  
 属している作品「御簞」の裏には母と息子が  
 まじった。今更けに37に夢や思い出を入れた。  
 ときも矢張り「なみ」の画商さんにお願い。  
 1年掛りに見せたものから、この「なみ」  
 だ。

A. K (美港和战市)



丸、重箱圓 容器

## ハコに詰まった思い

60年製の1962年、和紙誕生に内包の品。  
ガラス7第80の和紙のありて、除くはいい。  
はい。市販するものではない。色合いもいい等の  
理由で、和紙を考へ親族などに届く。7にやの  
ことだ。

答へるおまけには、おまけ。黒豆、漬物、佃煮。  
おまけと銘か食料7-11にあり。  
記憶は、今でもよく覚えている。

Y.T (美: 洛杉矶市)



「愛国」はカル？ と 箱

ハコに詰まった思い

今から80年前の小学5年生の身体  
の作品を、入電に6枚、おと  
しの宝物として保存している。

その間、孫が小学生の頃、昔のお話を聞かす、「戦雲と平和とを語りあう」にも参加していた。

F. I (八百津町)



たからぼこ

ハコに詰まった思い

[illegible]

祖父の作,た宝箱

ハコに詰まった思い

30年前、どんなガラクタでも  
宝物にかえてくれたおじいちゃんの宝箱。  
父親になった今、もう一度この宝箱  
であの頃の気持ちを取っ出せたら  
なと思います。



T.S (美濃加茂)

たからものは”こ

ハコに詰まった思い

私が小さい頃 父が作ってくれた「たからものばこ」。  
元の木箱はミカン箱。紙で下張りした上に、  
『週刊新潮』の表紙をかざっていた。「森田太郎」の  
絵がお気に入りだった。  
これが大切な人形おちのへやになった。  
紺色だった地色はすっかり色あせてしまて、年月の  
すぎたことを教えてくれるが、ふたをとると、  
何にもなれたあの頃の  
ほのかなの空色が目えてくる。



T.S (美濃加茂市)

## ひめつのタカラバコ

## ハコに詰まった思い

大好きなおじいちゃんに作ってくれた本の箱  
です。お気に入りの本や読者ふくで作った  
巻物、つるつるに磨いた泥だんご……  
子どもの頃のきらきらした思い出が入って  
います。あがと、子どもの頃に  
戻ることのできる箱です。



U.S (美濃加茂市)

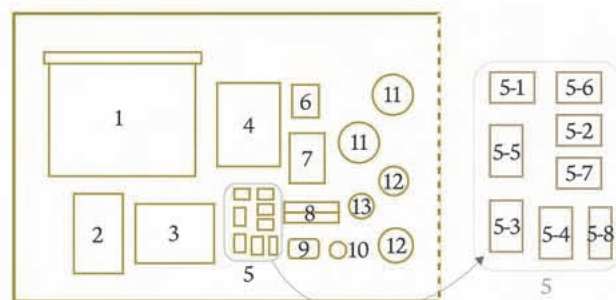
おじいちゃんの宝箱

ハコに詰まった思い

おじいちゃんか 造。これに特別な箱。  
 開けたら木と木のいいにおいが出てくる。  
 小さい頃は、大事な物や、取らねえといふの  
 を隠していた。自分だけ 開けたら 宝箱。  
 大事な手紙をいれて、時々読んでいた。  
 いたな。



M.S (美濃加茂市)



## 資料に込められた思い

### 1 整理箱 いろんな箱を入れて送った箱

Amazon で購入した収納ボックス（ロジストック ス・白無地）。VillageBox というブランドで、値段は¥537。部屋に資料が溢れてしまい、整理のために買ったのだが、組み立て式で良くできています。

### 2 東京都美術館の図録の箱

東京都美術館で行われた企画展「キュッパのびじゅつかん」（2015年7月18日〔土〕～10月4日〔日〕）。その展覧会の図録が収められる箱で、デザインもとてもユニーク。展覧会の元になったノルウェーの絵本は『KUBBE LAGER MUSEUM』（日本語題：キュッパのはくぶつかん）で「博物館」なんだけどね。さらに言えば、この絵本の博物館感もなかなか～絵はユーモラスで良いのだが。

### 3 iPad の箱

アップルのパッケージはカッコ良い！捨てられない。

### 4 北海道の六花亭のお菓子の詰め合わせ「十勝日誌」の箱

親戚からのお中元？歴史的な文献をお菓子の名前とデザインに使うのは面白い。何かに使えないかととっておいたが……。お菓子の説明は、『伊勢の人、松浦武四郎は北海道内陸を探検して初めて詳細な蝦夷地誌や地図を著し、紀行文23冊を編纂しました。十勝日誌はその一巻、安政5年（1858年）頃の十勝のようすが記されています。六花亭の「十勝日誌」は原本から表紙等を複製し、焼菓子からチョコレート菓子まで私どもの代表的銘菓の詰め合わせです。』

### 5 マッチ箱

マッチ箱のような家……などというが マッチ箱は今の日常生活の中にほとんどない。江戸東京たてもの園のボランティアをやるようになった。その活動の一つが囲炉裏やかまどに火を入れて民家を焼煙すること。着火用のライターでは勢弱気が出ないので、お店に行ってマッチがあったらもらって来るようになった。おそらく全て21世紀になって手にいれた物。今時、マッチのある店は珍しい。なお、ボランティアの会は「ひじろ会」と言い、多摩の方言で囲炉裏の事。コロナ騒動で現在も活

動休止中。都の施設では美術館のどのボランティア活動は再開しているが、ひじろ会は高齢者が多いからか？ 民家と高齢者は絵になる。

### 5-1 ジャズ喫茶「いーぐる」のマッチ

四谷にある有名なジャズ喫茶。店主 後藤雅洋はジャズ評論家としても活躍。時々お店でジャズ講座なども開催している。絶滅危惧店であるジャズ喫茶の絶滅危惧具であるマッチという非常に珍しい品。

### 5-2 名曲喫茶「パロック」のマッチ

吉祥寺の名曲喫茶。レコードで、リクエストにも対応してくれる。名曲喫茶はジャズ喫茶とともに絶滅危惧店でその絶滅危惧具であるマッチという非常に珍しい品。

### 5-3、4 「六曜社珈琲店」のマッチ

京都市河原町にある喫茶店で1階は喫茶、地下は喫茶とバーコーナー。珈琲豆の焙煎もやっていて1階と地下では異なる豆を使っているようだ。またドーナッツが名物。私は夕方から営業のバーコーナーでウイスキーのオンザロックを頼む。偏屈そうなオヤジのバーテンが一人で担当。同じカウンターで珈琲も飲めるが、担当は別の人。正月に行ったら 正月用のデザインのマッチ(3)があった。毎年デザインを変えているのか、年号だけか？普段は別なデザイン(4)のマッチがあるがホームページを見ると現在は1階も地下も禁煙なので、マッチが残っているか？なお、この喫茶店は1960年代後半の全共闘運動が盛んな時代の学生のたまり場の一つになっていた事で有名。『二十歳の原点』（著・高野悦子）の著者（当時立命館大学生）がよく行っていた事も。

### 5-5 鎌倉の居酒屋「野分」のマッチ

鎌倉の友人に連れられて行った店だと思うが、誰と何時いったか記憶なし。ホームページをみるといやにオシャレな店だが、こんな所に行ったかな～酒場やキャバレーのマッチは記憶が無い事が多い……。

### 5-6、7

100円ショップで購入したマッチでは。マッチが普通に買えるのは今や 100円ショップかアウトドアの店。ウマの絵(6)は創業大正8年の兵庫

のハリマ(株)製。ツバメの絵(7)は兵庫の日東社(株)(設立大正12年(創業：明治33年))製。

### 5-8 新宿のピアノ教室のマッチ箱

### 6 腕時計「Gショック」の箱

中がちょっと立派な箱で、もったいないと思ってとっておいたが…、時計は毎日使っているので、コレクターでもない限り使えない箱。通販で購入。

### 7 「チョコレート八橋」の箱

八つ橋は創業1689年、本家西尾八つ橋が経営する西尾八つ橋の里（西尾八つ橋別邸）で食事をし家へのお土産で買ったものだと思う。チョコレート八つ橋のパッケージは 現在は変わったようだ。なお、八つ橋は 本家争いがある。

### 8 お菓子が入っていた三角形の箱

立てて使う。中に小さな砂糖菓子が入っていたような気がする。クリップなどに入れて使えるかな？と、とっておいた。たぶん京都の創業宝暦五年の京菓子司依屋吉富の製品（友人がここでバイトをしていて、もらったような気がする）。なお、この店には京菓子資料館がある。

### 9 何かの缶

何が入っていたか記憶なし。小物を入れるのに使えないかととっておいたが。

### 10 おまけのオートバイ用の箱

たぶん缶コーヒー（UCC BLACK 無糖）のおまけ。

### 11 クッキーの入っていた丸い箱、缶

青い缶がバタークッキー〔¥600(税込¥648)〕、赤い缶がチョコチップクッキー〔¥350(税込¥378)〕。デンマークのおもしろ雑貨店「Flying Tiger Copenhagen」の渋谷店が吉祥寺店（両方とも現在は閉店）で購入。缶に描かれているのはマルグレーテ2世。「Flying Tiger Copenhagen」が生まれたデンマークの女王様。

### 12-1、2 紅茶用の丸い箱 A、B

金属製でも箱という事で。

### 13 南天のど飴の缶

K.K（東京都）

ハコ展 ～箱膳から「ハコモノ」まで



箱の輪指婚吉糸

みのかも文化の森のアートポテンティア  
 活動で、ご縁をいただき結婚したオムの  
 大切な思い出の品です。

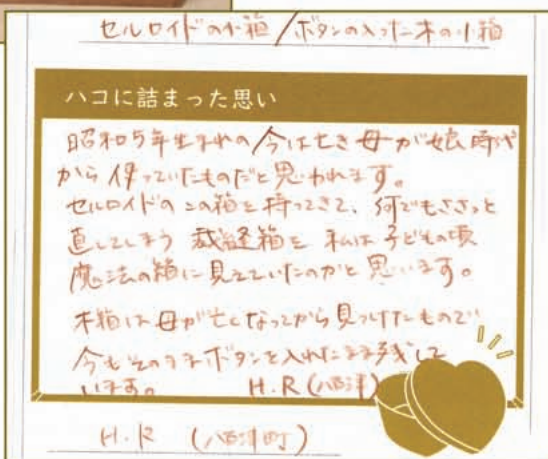


## ミニディスプレイボックス

ハコに詰まった思い

夫が渡いた漉き合わせ文様紙や  
植絨染色紙を見つけて作りました。  
やさしい自然の色合いがとても  
気に入っています。

M. H 美濃加茂市



セルロイドの小箱 / ホタルの入り木の小箱

## ハコに詰まった思い

昭和50年生まれの子の今は亡き母が奈良時代から傳っていたものだと思われます。  
セルロイドの二の箱を持っていて、何にもできず、と直してしまふ。裁縫箱を私の子どもの頃魔法の箱に見ていたのかと思えます。  
木箱は母が亡くなったから見つたものだし、今もその下タンを入れたまま残してあります。  
H.R. (ハル洋)

H. 2 (八重町)



裁縫箱

## ハコに詰まった思い

大塚で「被服分野専門校」に勉強して、その後  
洋服の知識を得たことは、確かに役に立った。でも、  
結局は「洋服の知識」だけでは、なかなか成功しな  
かった。そこで、今度は「洋服の知識」だけでなく、  
「洋服のデザイン」も学ばなければならなかった。  
そして、ついに「洋服のデザイン」を学ぶことに決  
めた。その結果、ついに「洋服のデザイン」を学  
び、自分の力で洋服のデザインができるようになった。

R.N (苏州市)



## 救急箱と裁縫箱

ハコに詰まった思い

[illegible]

T.N (美、港、日、欧市)

# ハコに詰まった思い

パールの入れ物... 小学生の頃、姉とおそろいでプレゼントしてもらったもの。当時の宝物を入れていた。緑地で父に買ってもらったチョウのペンダントと修学旅行先の奈良で自分で買ったペンダント。  
お菓子の空き箱... 高校生の頃、大好きな食べ物はマールチョコの筒のケースに入れた。おまけのシールを集めて入っていた。  
ギョーシェの空き缶... 大学生で一人暮らしを始める時、アパートへの引越しをして父と母が帰るとき、母が渡してくれたもの。お饅頭だったのか... 捨てるはずが入れられて今も現役。

A・H (町見市)



お気に入りの貝を入れた箱

# ハコに詰まった思い

三重県に旅行に行くとき、旅館にあってきれいな貝をもらいました。家に帰ってから、あれあれと箱にいいのがあったので、貝をそれに詰めました。

A・N (美濃加茂市)



タオル入れ

# ハコに詰まった思い

タオルをぐぐり使えるように7年前に作成したものです。普段は居間に置いてあり、家族みんなが使っています。現役の大工でしており、自分の道具を使って、旧くして作りました。使い勝手がとっても良いので、ぜひみなに見てもらいたいです。

Y・T (美濃加茂市三和町)



たまご箱 (いんか鬼い)

# ハコに詰まった思い

子どもが生まれ「いんか鬼」を入れた保管し、親を離れる時に渡すという箱。実際にいんか鬼はまだ入っていない。旅立つ時、親を離れる時に「いんか鬼」を手渡そうと思いきや、その日が早く来た方が良かった。新しい方が、いんか鬼の復讐が、いんか鬼いんか鬼の箱。

H・W (美濃加茂市)

## ハコ展 ～箱膳から「ハコモノ」まで

### かきおとし 陶小箱

#### ハコに詰まった思い

学生時代に自作した陶の小箱で、箱好きを自称するきっかけとなった作品です。いくつも箱を作りましたが、これだけはどうしても手放せない！手のひらに乗せて、撫でる、かわいいという箱です。

M.A 美濃加茂市



### あんもなしいとのぼ

#### ハコに詰まった思い

ねんちょうのワレマズにや、タマさんがもらいました。

T.H (美濃加茂市)



### ソーイングボックス(裁縫箱)

#### ハコに詰まった思い

還暦のお祝いに、日曜大工の趣味を生かして制作し、喜にプレゼントしたものです。結婚以来使っていたソーイングボックスが痛んでしまったため、是日お祝いも兼ねて、ふたの裏には、贈った時の写真が貼ってあります。

M.Y (美濃加茂市本郷町)



### 工名や役などの記録を記入する箱

#### ハコに詰まった思い

今は亡き私の父は、美濃加茂市に暮らした父の朝倉活動に、長年関わり、大量の資料を残しました。その資料ケースを、お菓子などの箱に詰めこみ、不思議とケースのフタの空箱に、びんや、リステイ、いつも父は、お菓子の空箱を詰めていました。

K.A (瀬戸市)



カラー複合機の梱包のり、ホール箱

ハコに詰まった思い

機器の梱包に使った大型サイズの役ホール箱。使い終わった後は、保育園の遊具として再利用し、多くの子どもたちに遊んでもらいました。

T.F (美濃加茂市)



小学生の時に作った箱

ハコに詰まった思い

小学6年生の時に、自分なりに頑張って作ったオレコールの箱です。卒業後、大垣市から美濃加茂市へと転校することになったため、この箱に思い出の品を入れて大切にしていた時期がありました。

H.F (美濃加茂市篠屋町)

鉄製工具箱

ハコに詰まった思い

1978(昭和53)年3月に見購入。大学受験のため、1年間の浪入生活を送った後、何とか合格できた春休み、バイトで初めて手にした給料で買った工具箱です。浪人を機に乗っていたバイクは手離し、受験勉強に専念した1年間、新しいバイクには手が届かない時期に、まずはお手に入れた工具箱には、その後も様々な思い出が詰まっています。

M.H (神奈川県鎌倉市)



海外調査用物資輸送用プラスチックダンボール

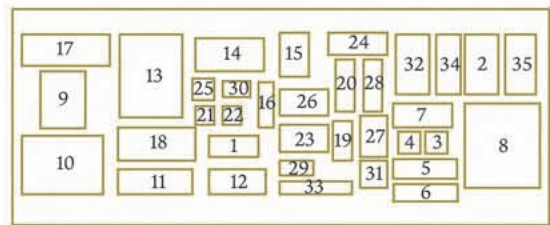
ハコに詰まった思い

このダンボールは、1980年代、京都大学理学部附属植物生態研究施設が行っていたネパールの植物調査の際に使ったもの。海外の調査では荷物が手荒に扱われたり、水ぬれ等があるため耐久性が必要になる。行きは食料や物資が、帰りは植物標本が入り、仮保管箱にもなっていました。京大から共同研究者のいる龍谷大へ送られ、植物標本庫に移した後、きのこが入り、大阪自然史博物館へおたりました。

D.S (大阪府大阪市)



資料一覧



資料に関する情報

今回は、ミュージアム・グッズの「ハコ」を出展させていただきました。普通、ハコは、グッズを梱包するための道具であり、それ自体は捨てられてしまう運命にあります。例外として、日本には「共箱」の文化があり、作品本体に付属する箱に作家や茶人、大名、実業家等の筆跡が残されているとその価値は高くなりますが、美術品ではなく、あくまで商品のハコですので、あまり顧みられることはないのではないかと思います。

今回改めて保存してあったハコを確認したところ、食べ物や圧倒的に多いことに気が付きました。これは、例えばクリアファイルや一筆箋であれば単にビニール・シートで梱包されているだけですし、カップやプレート、フレーム、ネクタイ等の立体物のハコは無地である場合が多く、さすがにそれを残すことはありません。逆に、食べ物の場合は、内容物は一般の商品で、包装紙やパッケージだけがオリジナルであることも少なくないため、結果的に数多く残っているのだと思います。

ただし、内容物がユニークなオリジナルな食べ物であることも多くあります。残念ながら食べ物には保存することが難しいため、写真等で記録に残すしかありませんが、できるだけ記録にも残す努力はしています。

なお、今回出展したものの中には、厳密には博物館所蔵の作品を使用し、ミュージアム・ショップだけでなく一般のお土産屋で販売されているものもありますが(4、5、8、10、18、25、33、34)、ミュージアム・グッズが広く市場に展開されているという意味では喜ばしいことだと考えます。なぜなら、画像使用料等が入るからで、貴重な博物館の財源となっているからです。(Y.K)

|    |                        |                     |
|----|------------------------|---------------------|
| 1  | 根津美術館(東京)              | 有平糖                 |
| 2  | ビート資料館(北海道)            | グラニュー糖              |
| 3  | ダチョウ王国(茨城)             | ダチョウ石鹸              |
| 4  | サイパン熱帯植物園              | ヤシの実石鹸              |
| 5  | サイパン熱帯植物園              | ヤシの実石鹸              |
| 6  | 日本科学未来館(東京)            | ミドリムシクッキー           |
| 7  | ミルウィーキー美術館(アメリカ)       | クッキー                |
| 8  | 長谷川町子美術館(東京)           | ケーキ                 |
| 9  | 松井秀喜ベースボールミュージアム(石川)   | クッキー                |
| 10 | 田川市石炭・歴史博物館(福岡)        | 焼きチョコ               |
| 11 | 国立科学博物館(東京)            | サブレ菓子               |
| 12 | 中札内美術館(北海道)            | チョコレート              |
| 13 | むろと廃校水族館(高知)           | チョコサブレパイ            |
| 14 | 国立西洋美術館(東京)            | ブティゴーフル             |
| 15 | 島根県立三瓶自然館サヒメル(島根県)     | 焼き菓子                |
| 16 | 東京国立博物館(東京)            | チーズケーキ              |
| 17 | 九州国立博物館(福岡)            | パウンドケーキ             |
| 18 | 地質調査総合センター地質標本館(茨城県)   | 化石チョコレート            |
| 19 | 鉄道博物館(埼玉県)             | チョコキャラメル            |
| 20 | ぐんま昆虫の森(群馬県)           | チョコレート菓子            |
| 21 | 京都国立博物館(京都)            | 金平糖                 |
| 22 | 京都国立博物館(京都)            | 金平糖                 |
| 23 | 富士サファリパーク(静岡県)         | チョコレート              |
| 24 | 長崎歴史文化博物館(長崎)          | チョコレート・紅茶クッキー       |
| 25 | 表参道ヒルズ(東京)(草間彌生)       | マーブルチョコ             |
| 26 | ニコンミュージアム(東京)          | 一口羊羹                |
| 27 | 藤子・F・不二雄ミュージアム(神奈川県)   | ドラえもんチョコレート         |
| 28 | 大和文華館(奈良県)             | 50周年記念ボールペン         |
| 29 | ミュシャ展(2004-2006)特別展グッズ | ビスケット               |
| 30 | DIC川村記念美術館(千葉県)        | ピンバッジ               |
| 31 | メトロポリタン美術館(アメリカ)       | オーナメント              |
| 32 | ヤンマーミュージアム(滋賀)         | ランドグシャ(ヤンマー大図庫プリント) |
| 33 | 大和ミュージアム(広島)           | ラップフィルム「クレシラップ」     |
| 34 | いがらしゆみこ美術館(岡山)         | プリンセス・ピンクカレー        |
| 35 | ロマンスカーミュージアム(神奈川)      | モハ1形カレー             |

母の日のプレゼントの箱

## ハコに詰まった思い

母の日に、おいしいお菓子を作りました。  
一人でいっぱい食べました。

T.F (美濃加茂市) の実地



バレンタインの箱

ハコに詰まった思い

自分へのご褒美に。  
娘と買ったお高いチョコレート  
の入っていた箱です。

T.F (美濃加茂市) の実様



フォレストくらぶで作成した「ハコ」

ハコに詰まった思い

文化の森の会員制定期講座「フォレストくらぶ」で7/16(土)に制作した「ハコ」の見本です。  
「ハコ」の関連講座として、木でできた「ハコ」に色をぬり、押し花や押し葉で装飾しにしたり、世界に1つの「ハコ」を完成させました。  
講座後のアンケートでは、「中に空想を入れたい」、「家に飾りたい」という感想がありました。  
大ハコに使ってもらえることを願っています。

計のりも文化の森 学芸学習係  
(7月5日より担当)

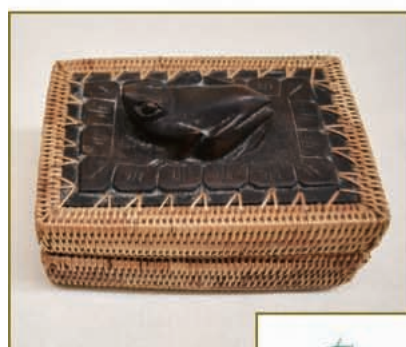


石のたからものは

ハコに詰まった思い

小学校1年生の時に拾った石を一つ  
かたに、家の近くなどで拾い集めた  
水晶っぽい石。祖父と一緒に集めた  
思い出が湧きます。集めていた時に、  
「水晶は成長する」と祖父に教えてもらい  
「早く大きくならないかな」と磨い  
たり、眺めたりしていました。

M. N (可尼市)



力工IL a 第113

ハコに詰まった思い

20年前、新潟旅行のついでにマレーシアまで購入した。夏場の暑さやお日よけ、再生や生命の象徴としても使えるカエル。そのほか、薬を入れたり、汗拭きにも使用していい。

T. N (東京部)



### タトゥー入りデディベアの箱

パリのケ・ブランリー美術館（Musée du quai Branly）で、2015年に買ったお土産のハコ。この時に開催されていたのは「TATOUEURS, TATOUES（彫師たちと彫られたもの）」という、タトゥーを通して人類史を読み解こうとする、かなりインパクトのある企画展だった。アジアからアフリカまで非西洋の文化を横断的に紹介する館のコンセプトが反映された意欲的な内容だったが、日本の博物館では、なかなか難しい内容だろうな—とも思った。

ケ・ブランリーでのお楽しみの一つは、ミュージアムショップ。ディープなタトゥーの世界とは対照的に、可愛いクマのぬいぐるみ（デディベア）が目をつけた。企画展の関連グッズとして気が利いていると思ったことに加え、そのハコが素朴で愛らしく丁寧な造りだったことも印象的だった。

旅の後、ほかにふさわしく容れるものが見いだせず、空っぽのまま大事にとってあったハコ。パリの旅空は、まだまだ遠い彼方だが、タトゥーベアにはハコと一緒に、美濃加茂にお出かけしてもらおうことにしよう。

岐阜市 A.T

### デコパージュの箱

ハコに詰まった思い

20年ほど前、デコパージュ（紙や布を貼って装飾する技法）の講座で作ったものです。つぎはぎするのが楽しく、きれいに作ってとても嬉しかったのを覚えています。ママさんを重ねて貼ったことで立体的に見えるのもポイント。普段は何も入れず、リビングの棚に飾っていましたが、ぜひ自作の自信作をみなさんに見てもらうたいです。

T.A（美濃加茂市井町）



### 茶籠

ハコに詰まった思い

20代の時に中国で見立しました。茶碗など必要な道具を少しづつ揃えていきました。あー!? ハコじゃなくカゴだっ

小.T.（京都府）

「南蛮おるおる」の木箱

ハコに詰まった思い

1998年、国立民族学博物館で  
森田恒友先生が担当された「なまはてのこころ  
いるの?」という展覧会。初めはワークシートを  
作らせてもらった。シートをやりおいて参加者  
「なまはて」のしきとして、自作のワークシートは  
手甲に付いた。そのワークシートは展示場で  
使用。本箱がステータス。今このお菓子に  
同ロケーションの作品が、なまはて。

Y.S 只庫縣寧城

金と銀の包装系統を異ならせた一対の箱

ハコに詰まった思い

1990年代、ケニヒスフローネのケーチン  
入っていたと思う。そのリヒト箱を有文には  
使っていた。わざわざこの包装紙を見入  
したように思う。シールや便箋封筒、手紙  
などを入れて使用していた。今もなにかと  
持合えられず、実家の布棚の上に置いて  
まわっている。

Y.S 矢庫果宝塚市



持ち手付き赤い缶の箱

ハコに詰まった思い

1972-3年ごろに入居。不二家のお菓子店。  
スウェーデンのこの父の友人が菓店（1F）際にお土産  
を買ったと思う。当時、自宅最寄駅近くの商店  
街に大きな不二家と喫茶店さんの向かい合っ  
てあり、その2件に「連れ合行」のものがど  
ろり入った。シール入れにしていて、今も入  
りまわ。1970年代前半のふしやかな行銀シ  
ールに残っているもの。

Y.S 尖库鼎宝塚市

絵を描いた白い三段弓に、出しの箱

ハコに詰まった思い

1980年2月のもの、小学6年、中学1.2年だった。  
給食でクリームチーズが入っていた。重ねに引き出し  
にしようと思いゴミ箱行きには寸前、ゴミ箱を  
持ち帰った。そのころのま今も、中途  
半端になった色えんぴつを色づけておいて  
いる。中の色に合わせてイラストを描いて。

Y.S 矢庫果宝塚市

千兩箱

ハコに詰まった思い

関市にある実家において、祖父の代から譲り受けた箱です。明治～昭和時代、お金を入れて使っていたもの。貼入額席の渡し賃を入れていたかも？昭和50年頃父から受け継いだときはとても嬉しかったと覚えています。今は床の間に置いて、思い出のものを飾っています。

S.H (美濃加茂市伊深町)



### 蚊取り線香の箱

#### ハコに詰まった思い

誰かに土産でもらった箱のデザインが珍しいので、家に、この部屋の見える所に置いています。線香を使い終わった後は、蚊止めゼリーなどを入れて使っています。

大阪府高槻市 M.T.



### へその緒の箱

#### ハコに詰まった思い

人生、最初に手に入れる箱!!

O.M (坂祝町)



### アクリル入れ

#### ハコに詰まった思い

子供の頃の宝物入れが「おとこどきどき入れ」と思いはじめた中学生の時にもらったハコです。これ以来、「おとこどきどき」アクリル入れとして、ずっと使っています。

大阪府高槻市 M.T.



クッキー缶。原産国 デンマーク  
賞味期限 2001.07.27

#### ハコに詰まった思い

実家を出て台所に立つようになった頃にもらったクッキー。ビター・シュガーが好きなので、常備する缶の中からずっと使っています。砂糖、塩も調味料入れに物を入る袋の袋（開封した袋に入った状態）も保存しています。塩から味をちぎりました。

大阪府高槻市 M.T.



### タイルが入っている箱

#### ハコに詰まった思い

好きな人の家に遊びに行った時、タイルをいくつか、この箱に入れてもらって帰りました。ずっと大切に保管しています。今でも仲良く使っています。

M.U (茨城県市本郷町)





発掘調査で出た、和鏡に張り付いた鏡箔

ハコに詰まった思い

千葉県袖ヶ浦市の文協遺跡の発掘調査中に出土した鏡箔（写真）です。箔に貼られた遺跡の遺物であり、自分にとって若き頃の重要な一場面と化しています。

T.Y (新潟県)



引き出し付き 文箱

ハコに詰まった思い

太田宿の脇本陣の蔵の中から見つかった箱です。中には、硯、筆、磁器（附）の筆置きが入っています。使い込まれた跡があり、先々代以前が使っていたものではないかと思われます。

S.H (美濃加茂市)

社倉箱

ハコに詰まった思い

太田宿の脇本陣の蔵の中から見つかった箱です。表には「社倉箱」と書かれています。上部分から中にものを入れられるようになり、壁にかけて使われていたと思われます。裏面には「林市左衛門」と書かれています。江戸時代に使われていた箱だと考えられます。

S.H (美濃加茂市)





### 絵の具箱

#### ハコに詰まった思い

父が高校時代に使っていたと思われる絵の具箱です。父の画いた油絵は家のあちこちに飾ってありました。小学生の終わりと息より納戸に入り、かわいいものを探していたと父は見つけ、それ以来大切な小物を入れるのに持借して行きます。

N・K (羽咋県)



### 塗り箱

#### ハコに詰まった思い

父方の祖母の形見分けでもらいました。祖母が大切にものを入れていたことで、糸文にカーゴイので「あこがれの箱」とした。今は掛け軸や、ちょっとした大事にしたい和装小物入れに使っています。

木阪村高槻市 M.T.



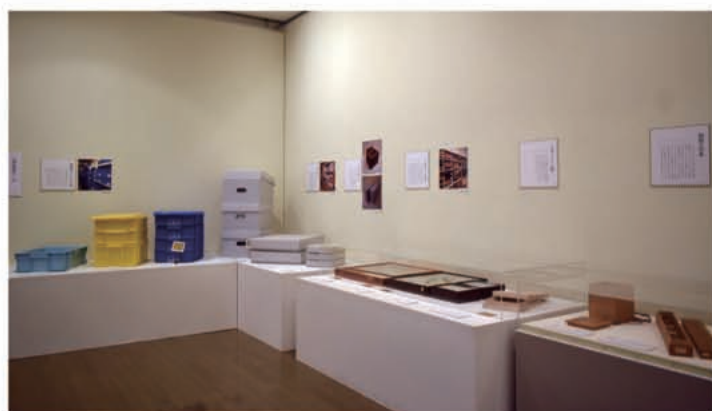
### 茶箱

#### ハコに詰まった思い

子供の頃(昭和40年代中頃まで)は、お家で茶摘みをして、お茶の葉を製茶した茶葉の保存用として使っていました。今は茶摘みはやめてしまったが、お茶の保存用に使っています。

D.N (大津市)





ここでは、「文学」や「ことば」など、形として残らなくとも私たちの生活に溶け込んだ箱の世界を紹介します。

また、「ハコモノ」ともいわれる博物館において用いられる様々な箱を紹介しながら、これからのミュージアム像についても考えます。



## 【文学の―】

言語表現による芸術作品〔詩歌・小説・戯曲・随筆・評論など〕のなかで、「ハコ」がその内容や主題を貫き、かつ作中の不可欠な要素であると考えられるもの。著者が「ハコ」を寓意的に用いたと思われる作品もあり、作者の内奥の思索や信条、ひいてはその背後にある社会情勢を投影させている場合も多い。

## 閉じ込められる恐怖

子どものころ、ふざけて押入れや納戸もぐりなどの中に隠れていた記憶はありませんか。狭くて暗い空間は、人によっては不思議と落ち着くものです。近世の日本で衣類や寝具の収納に使用された長持。実はその長持を題材にした狂言や怪談などは数多くあります。それだけ長持が人々にとって身近な家具であったことを示す一方、蔵や納戸に置かれた人ひとりすっぽり入るほどの大きなハコに感じる恐怖心なども垣間見えます。

## お勢登場

江戸川乱歩

肺病を病む格太郎はある日、息子たちと家でかくれんぼ。押し入れの長持に隠れるが、はずみで掛け金が落ち、見つけれぬまま閉じ込められてしまう。その時、不倫相手の元から帰ってきた妻のお勢。もがく夫の声に気づき、助けようと長持ちに手をかけるがその刹那、彼女の脳裏によぎったのは、途方もなく醜悪な考えだった。お勢が完璧にまで演じる完全犯罪の幕開けである。

まっ暗な、樟脳臭い長持の中は、妙に居心地がよかった。格太郎は少年時代の懐しい思出に、ふと涙ぐましくなっていた。

（一九二六年七月号『大衆文藝』新小説社）

## あめ 飴チョコの天使 てんし

おがわ  
小川 未明 みめい

都会にあるいくつもの煙突が突き出た工場。ここで作られた飴チョコは小さな箱に入れられ各地へ送られる。その箱には可愛らしい天使の絵が。その運命は、最後にはゴミ箱やストープの火の中へと散々で、魂はみな青い空へと昇っていく。行く末に期待と不安を抱きながら、ある三人の天使が行き着いたのは、都会から遠く離れた小さな村のお菓子屋だった。

なんといっても子供らは、箱の中に入っている飴チョコさえ食べればいいのです。

(一九二三年三月号『赤い鳥』赤い鳥社)

## たよう 多様な素材のお菓子箱 おかしばこ

お菓子のパッケージには、紙、アルミ、瓶など幅広い材質が使われています。特に戦後に開発された合成樹脂のプラスチックから、様々な形態の容器が製品化されました。それに伴いデザインも豊富で多様になり、目を引くような鮮やかなものが増えていきます。空き箱を大切にすることがある一方、箱に描かれた天使の絵に気にも留めずに捨ててしまう子どもたちは、大量消費社会への移行を暗示しているようです。



チュウイングガムの箱（ハコで売り出す4）

## 本の函について

本の函は、本来持ち運びで出版物が傷つくのを防ぐ保護用の容器として生まれたものです。日本ではこれを装丁の一部として取り込み、書籍の装飾性を高めるようになりました。しかし一九七〇年代を最盛期として、全書の販売不振や用紙統制により次第に廃れていきます。出版社の間でも函を過剰な造本とみて「函無用」とまで唱えられる今、函とパラフィン紙で丁寧に包まれた本を見るのは珍しくなりました。



本の箱（館蔵）

## 書物の倫理

三木 清

書物に対する持論を述べたエッセイ。日本の本屋、文庫、読書の仕方などについて意見をつづる中、箱入りの本にも言及する。本の「箱」は総体として単調な印象を与え、不便で不経済だとする一方で、これは本を大事にする日本人の美德であるとも認めている。著者いわく、『いずれにせよ「本は使うもの」という認識を持つことが「書物の倫理」なのである。』

箱を大事にするということは、書物を尊重する日本人の道德の現われであるように思われる。

（一九三三年四月号『東京堂月報』東京堂）

## 硯箱と時計

すずりばこ

とけい

おきの  
いわさぶろう  
沖野 岩三郎

成績優秀な元士族の石之助は、ある日、父から「今年度から小学校の優等生には、東京にいる若殿様から御定紋のついた硯箱をもらえる」という話を聞く。お隣の石丸を敵対視しながら勉学に励んだ末にめでたく硯箱を授与され、狂喜乱舞する石之助。中学卒業後、お礼を述べるため若殿様の元を訪れるが、そこでは彼は、本当の勉強の目的を思い知らされるのであった。

「お父さま大丈夫だ。僕、きつとその硯箱をもらつてみせる。」

石之助は元気に、にぎりこぶしで、  
ひざをたたきながら言ひました。

(一九二六年一月号『金の星』金の星社)

## 褒美としての箱

箱は古くから下賜品として多く用いられていました。現在ではすっかり使われなくなってしまう硯箱ですが、本作では旧藩時代の身分制度が解体されていく中、これからの学問の在り方を示すひとつの象徴のように描かれています。今回の展示品の一つである硯箱の側面には「賞 古井農業補学校」の文字がみえ、この地域でも学校において、記念品として与えられていたことが分かります。



硯箱（ハコで売り出す1）

## 箱を覗いて見た世界

昔のカメラは現在のように小型ではなく、ガラス乾板などが必要とする大きな箱型のものでした。作中の女性は「男」にとてつもない恐怖を抱いていましたが、カメラのレンズを覗き「箱の中」で像をとらえるとなぜか威圧感が消え、彼女の中で男は小さな人形へと収縮するのです。「もの」と化した男たちはもはや女性の意のまま。文字通り「手中に収める」といったところでしうか。「ハコ」の不思議な力を感じさせるようです。



写真機を持ち運ぶ箱（ハコで運ぶ2）

## 箱の中のあなた

山川 方夫

「私生きている人が怖い。」棚に並べられたいくつもの写真立てを愛おしそうに眺める一人の女性。そこに写るのは、どれも同じ場所で夕焼けに染まった男の姿だった。内気な彼女が、観光客にせがまれてカメラを覗くその目は、いつもある絶望のような決意で満たされている。その男たちに待っているのは変わらず同じ宿命だった。

男たちは、そろってあの丘の上の豪奢な夕映えにまみれ、炎のような形の樹を背にして、彼女の手で箱のなかに収められた瞬間の、それぞれの得意なポーズのままで笑っていた。

（一九六一年二月号『ヒッチコック・マガジン』第5巻第2号 宝石社）

## 妻の秘密宮

佐々木 邦

同僚の中で洋画、謡曲、登山、探偵小説、とお互いそれぞれの趣味を持ったグループ・人呼んで「才人五人組」。一人独身の広瀬君は、高等批評家と揶揄されるほどに人をけなす名人で、みな  
が持て余している存在。ある日彼は、どんな妻でも旦那には  
見せられない「何か」を入れた「秘密宮」を持つていると言うが、  
これは平穏な家庭に人波立てようとする彼の策略だった…。

「いや、君達の奥さん方にしても、  
必ずしも君達が好きで嫁に来たんじゃないかもしれない。  
箆笥の中に秘密宮を持って来てないとは限らないぜ。」

(一九三九年一〇月号『現代』大日本雄辯會講談社)

## 秘密のハコに隠すもの

箱を用いるときの人間の心理として  
「隠す」という性質があるのは確かです。  
本作では、「広瀬君」が、妻はみな夫には  
見せられない「秘密宮」を持つているとい  
う冗談で、他の四人の心をかき乱しま  
す。まさに「パンドラの匣」。開けては災厄  
があるとはわかっているのに、開けずには  
いられない。そんな人間もなぜか愛お  
しく感じます。本作では「僕」の妻が隠し  
持つていたのは、寄せ木細工の箱根箱で  
した。



文箱(ハコで運ぶ)



小鳥箱（ハコに入れる4）

## 窮屈で閉ざされた箱

壮年期に教員を経験した宮沢賢治の作品中には「学校」や「教室」がよく登場しますが、そこには彼の当時の学校教育や教員の質の低下などに対する反感が見えると一般に指摘されています。作中に登場する鳥箱は頑丈な厚い板で四方を囲まれた極めて暗く窮屈な空間で、当時の教場に対する彼の印象が示されているようです。猫大将の言うように、「国家の前途が思いやられる」と当時の教育の行く先に危機感を持っていたのでしょう。

## 鳥箱先生とフウねずみ

とりばこせんせい

みやざわ けんじ  
宮沢 賢治

ある家に置かれた一つの鳥箱。中に入れられたひよどりを諭すうちに、自分は先生なのだと思い込む。その後、自分の不手際でひよどりを死なせてしまい信用を失くした鳥箱は物置の棚へ仕舞われ、そこで母ねずみからフウという子ねずみの教育を頼まれるのだが……。鳥箱とフウねずみの不毛ともいえるやり取りに、最後に猫大将から痛烈な一言を放たれる。

そこで「おれは先生なんだぞ。鳥箱先生といふんだぞ。お前を教育するんだぞ。」と云ひました。  
ひよどりも仕方なく、それからは、鳥箱先生と呼んでゐました。

（一九七九年五月『宮沢賢治全集』第8巻 筑摩書房）

# 箱男

はこおとこ

あべ こうぼう  
安部 公房

段ボール箱をすつぽりとかぶり、覗き窓から外の世界をみつめて都市をさまよう「箱男」の記録の物語。「箱男」の手記を軸に、突然の寓話や記事などが差し込まれ、きわめて実験的な小説。贗箱男との錯綜した関係、看護婦との愛などが描かれる中で、「見る」「見られる」という自他関係や、都市における不在証明など、社会や人間の本質的な部分を私たちに問いかける。

じっさい箱というやつは、見掛けはまったく単純なただの直方体にすぎないが、いったん内側から眺めると、百の知恵の輪をつなぎ合わせたような迷路なのだ。

(一九七三年三月 新潮社版(書き下ろし))

## 匿名性の社会

箱男は、他者との関係を拒否して自分だけの世界に閉じこもり自分が適応できない外の世界を一方的にのぞき見る。これは一種の「匿名性」の象徴でもあります。それは自ら顔や名前など素性を隠して、様々な情報を手に入れたり、やり取りができてしまう現代のよう。作者はその先鋭的なまなざしで、こういった現象をすでに予見していたのでしょうか。私たちの意識という抽象的なハコに囚われていることを思い知らされます。



『箱男』(文学のハコ1)

## 【言葉の中の一】

人の発する音声のまとまりで社会に認められた意味を持つているもののうち、「ハコ」の音便を持ち、かつその意味が「ハコ」の機能ないし性格をおおいに反映させていると考えられるもの。ことわざや慣用句、故事成語を含む。人々の言語を介した「ハコ」へのまなざしを垣間見ることができる。なおここでは『広辞苑』、『日本国語大辞典』を参考にした。

## 方舟 [はこぶね]

(箱船・方舟)長方形の船。ノアの方舟。神が悪意に満ちた世界を絶滅させようとして洪水を起こした時、ノアが神の恩恵を得て製作し、家族や禽獣とともに乗って難を避けたという方形の船。

## 箱分別 [はこぶんべつ]

箱のように四角張って融通のきかない、硬直したものの考え方。

## ドル箱 [どるばこ]

収入の源になるもの。金を儲けさせてくれる人。また、よく売れる商品。



## 箱書 [はこがき]

- ① 書画・器物などを収めた箱に、中の品の名称や、作者の署名、押印などをしたもの。
- ② シナリオ執筆のさい、あらかじめ各シーンごとに抜き書きすること。

## 箱落とし [はこおとし]

小型の獣類を捕獲するための獵具。箱の中に入れて餌を引くと、支点が外れて上の重しが落下する装置のもの。

## 箱馬

〔はこうま〕

高い所のあるものを取るときなどに  
使う踏み台。

## 「」構え

〔はこがまえ〕

漢字の構えの一つ。「匠」「匡」  
「匪」などの「匚」の部分を用いる。  
「匹」「匿」などの「匚」とは別。柳  
や竹などをまげて作った箱の形象で、  
左の「」が底で、上下の「」が両  
側面、右のあいたところが口をあらわ  
す。

## 箱入り娘

〔はこいりむすめ〕

大切に養いかしずいて、みだりに外へ出さ  
ない娘。秘蔵娘。



## 箱詰

〔はこづめ〕

① 箱に物を詰めること。また、その詰  
めたもの。  
② 少しの余地もないくらいぎっしりと  
詰めること。すしづめ。

## 目安箱

〔めやすばこ〕

広く人民の要求や不満などの投書を受  
けるために用いられた箱。古く、戦国  
時代にはおかれていたというが、江戸  
時代、徳川八代將軍吉宗よって、評定  
所の門前に置かれ、人々の利用を奨励  
した。諸役人の非行を正し、行政の廉  
正をはかるのに役立った。

## 箱庭

〔はこにわ〕

浅い箱の中に土砂を入れ、小さな木や  
草を植え、庭園。山水の景を模したも  
の。

## 道具箱

〔どうぐばこ〕

道具を入れておく箱。特に、木工道具を入れておく箱。ある作業を行うのに必要な道具類をひとまとめにして収納する持ち運びのできる大きさの箱。日本語では、特に木工道具を収める箱を指している。また、特に学童が学用品を収める箱のことを指している場合は、接頭辞の「お」をつけて「おどうぐばこ」という。

## 塵箱

〔ごみばこ〕

役に立たなくなってしまうた不要なごみを入れて一時的に集めておくための容器のこと。

## お払い箱になる

（毎年新しいのが来て古いものは不要となることから、「払い」に「払い」をかけて）雇人を解雇すること。不用品を取り捨てること。

## 貯金箱

〔ちょきんばこ〕

少額の金銭を入れておくための容器。

## 御箱

〔おはこ〕

（箱に入れて大切に保存する意から）とっておきの、得意とする芸。転じて、その人がよくやる動作やよく口にすることば。また、その人のくせ。  
（歌舞伎十八番を市川家が秘蔵芸としたことから「十八番」とも当てて書く）



## 匣を得て珠を還す

形式のみに惑わされて内容を忘れることのたとえ。方法を誤り目的を失ってしまうこと。楚（古代中国の国名）の人で、珠を蜀（同上）に売り込んだ者がいた。木蘭を材料にして箱を作り、桂や椒などの香りをたきこめ、珠玉をつづって掛け、美玉を飾り付け、かわせみの美しい羽を付けて掛けたところ、蜀の人は箱の方を買って珠の方は返したという、『韓非子』による。

## パンドラの箱 はこ

ギリシア神話で、ゼウスがパンドラに渡した箱。あらゆる悪・不幸・禍を封じ込めてあった。パンドラとはギリシア神話中の人類最初の女性。プロメテウスが天から盗んだ火を人間に与えたため、人間が高慢になったので、災いの詰まった箱をもたせて神が地上に送った女。彼女が好奇心からこの箱を開けたので、地上には不幸が広がり、「希望」だけが箱の底に残ったという。

## 開けてびっくり玉手箱 たまてばこ

意外な内容や結果に驚くことのとえ。昔話の浦島太郎が、竜宮城で貰った玉手箱を開けて老人となった話をふまえた表現。



## 玩具箱をひっくり返したよう おもちゃばこ

物事に統一がなく、乱雑なさまのたとえ。

## 香箱を作る かうばこ

(香箱の形に似ているところから)猫が背をまるめてうずくまっているさまをいう。また、人が日なたなどで、背をまるくしてすわっている様子にもいう。

## 重箱の隅をつつく じゅうばこ すみ

些細な点まで干渉、詮索したり、どうでもよいようなつまらない事柄にまで口出したりすることのたとえ。



## 骨箱を叩く こつばこ たたく

人が語ることをのしつて言う語、大きなことを言う。よくしゃべる。口をたたく。



## 【博物館の―】

「博物館」とは、「歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するための必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関」（博物館法第一章第二条）とされる。そこにおいて、それぞれの用途のために使用されている「ハコ」の総称。特に保管の観点においては、人類や地域の共有財産である資料を恒久的に次世代へ伝えるため、材質や構造に工夫がみられる場合が多い。



収蔵庫の様子

## 博物館のプラスチック箱

現在、博物館資料を保管、移動するために欠かせないプラスチック製の箱。製造会社や利用する博物館などによって、「テンバコ」「ポリテナー」「コンテナ」など様々に呼ばれます。帯電防止効果を持つなど特殊加工が施されたものもあり、温度、湿度などの環境の変化に強く、金属製に比べ軽いという利点もあります。堅牢な強度と、安定した段積みの特徴があり、特に考古遺物の管理には欠かせないものです。

## 紙を紙で守る

人々はこれまで、記録やさまざまなりと紙に残してきました。博物館ではそういった歴史資料の保管に用いられる文書箱（もんじょばこ）を用いています。資料は温湿度の変化や、光、塵埃、熱、大気汚染、虫かび、火災水害など様々な危険にさらされています。特に文書箱は中性紙が使用され材質による資料への影響を抑えています。



収蔵庫の様子

## ドイツ箱とその性能

美しく塗装された木製で、上面はガラス張り。全国の博物館や研究機関で導入されているこの昆虫標本箱を「ドイツ箱」と呼びます。標本の敵は、虫による食害や湿気に伴うカビ、紫外線などです。虫やカビは標本をぼろぼろにし、紫外線は標本本来の色を失わせます。良好な管理をすれば数百年はもつともいわれる昆虫標本。ドイツ箱はその気密性の高さによって、標本を虫害や湿気から守り、美しく標本たちをみせてくれます。



収蔵庫の様子

## なぜ「ドイツ」箱？

ドイツの博物館で大きな規格を設けて制作した標本箱。日本の昆虫標本はこのドイツ規格に従っているため、「ドイツ箱」と呼ばれるようになりました。しかし、いつ頃、誰が普及させたかなどの詳細はわかっていないようです。



標本箱（博物館のハコ6・7）

## 桐箱の効果

日本では古くから着物、医薬品、書物、調度品など、「大切なもの」を代々桐箱に納め守ってきました。桐材は、大気中の水分を呼吸するように放出・吸収するため内部の湿度が一定に保たれ、経年によるそりやゆがみが生じにくく、また燃えにくいという特徴があります。防虫効果、防虫効果のある天然の成分を多く含むという機能を持ち合わせており、まさに文化財の保存に有効な箱だといえます。



「桐箱」（博物館のハコ10・11・12）

## 資料を「みせる」箱

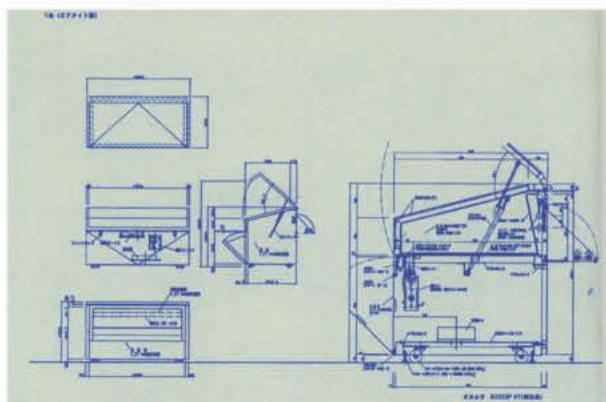
博物館の展示で用いられる展示ケースもハコの一つといえます。盗難や破損を防ぐ安全性はもちろん、温湿度変化や虫、ほこりを防ぎ、紫外線を抑えた照明を使うなど展示物を「守る」機能を備えています。一方で、展示物の本来の色や質感を感じられるように反射の少ない特殊ガラスを用いたり、角度や照明を調整できるなど展示物を「見せる」引き立て役でもあります。

展示ケース（博物館のハコ17）



## ハコを作り替える

近年、博物館に寄贈を受けた四つ切（二五×三〇cm）の一七枚のガラス乾板。それは縦に切り込みを入れた専用の古い木箱に入っていました。が、収蔵に際してより安全に保管できる中性紙の箱を特注しました。もともとの木箱は、収納してきた事実を物語る資料として現在も大切に保管されています。



新しく作られた収納箱



寄贈当時の収納箱

## 「まんじゅう箱」作成の手順

- ① 箱の中に入れるもののサイズを測る
- ② 箱の折寸を決める  
今回のまんじゅう箱は、外寸が縦 50cm× 横 60cm× 高さ 80cm。内寸は縦 49cm× 横 59cm× 高さ 75cm です。サイズに合わせて 190cm×240cm のシートをカッターで切り出します。段ボールの切り口で手などを切らないように切り口をならすこともあります。
- ③ 折すじをつける  
段ボールの目に合わせてカッターで切り込みを入れ、折すじをつけます。さらに刃をしまった状態のカッターを使って折すじを深くします。
- ④ 折る  
折すじに合わせてシートを折っていきます。真ん中が湾曲しないよう、しっかりと折り癖をつけていきます。

〔資料、情報提供：日本通運株式会社 中部美術品支店〕

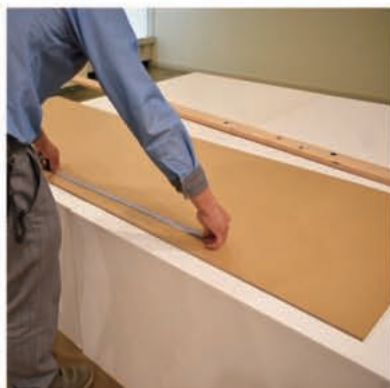
### その場で作られるハコ

借用先から資料や作品を輸送する際、既存の箱のサイズに資料が収まらない時は専門業者によってその場で段ボール板シートから箱を作成してもらうことがあります。  
ここでは、本体とかぶせ蓋がセットになった通称「まんじゅう箱」ができるまでを紹介します。

ダブルの段ボール板シート（博物館のハコ 14）



「まんじゅう箱」作成の手順 ①



「まんじゅう箱」作成の手順 ③



「まんじゅう箱」作成の手順 ④



「まんじゅう箱」作成の手順 ④





箱に関するさまざまな事柄。

## 【一のあれこれ】



曹源寺（愛知県常滑市）

## 奉納された箱車 ほうのう

箱車とは、人が入れるほどの木箱に車輪をつけた車イスのような役割の古道具のこと。愛知県常滑市の曹源寺にある箱車は、大正十二（一九二三）年頃、岡山県岡田長五郎という人が奉納したものです。伝承によればこの箱車は、長五郎が巡礼の旅で美濃の地に立ち寄った際、長旅によって破損した箱車を憐れんだ太田町の大工によって作られたものだそうです。長五郎はのちに太田を訪れ、彼らに厚くお礼を述べたといいます。

## 禅徳寺の箱笈 ぜんとくじ

箱笈とは、諸国を巡る僧が仏具・生活用具などを入れて背負って歩く箱のこと。美濃加茂市伊深町の禅徳寺には、妙心寺の開山・関山慧玄が伊深にやつてきた際、背負ってきたと伝わる箱笈（市指定文化財）があります。漆塗り、真鍮と鉄の意匠を凝らした質素で優美な箱の中には、精緻な彩色木彫の釈迦三尊像が祀られます。笈の紐も霊験あらたかで古くから祈願するものが多く、現在も別箱に入れて大切に保管されています。



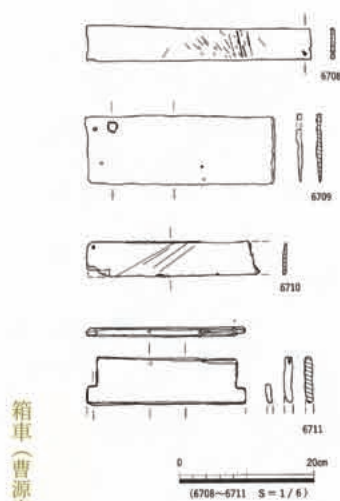
箱車（曹源寺）

## 柿田遺跡で見つかったハコ

平城京奈良市の発掘では、古代のハコが多数見つかっています。板を組み合わせた箱と、角材をくりぬいた箱です。

弥生時代から中世にかけての大集落である可児市の柿田遺跡においても、曲げ物などともに板状の箱の部材らしき木製品が水路跡から多く出土しています。作成時期は古墳時代から中世にかけてですが、用途は不明です。

(岐阜県教育文化財団文化財保護センター『柿田遺跡』二〇〇五年)

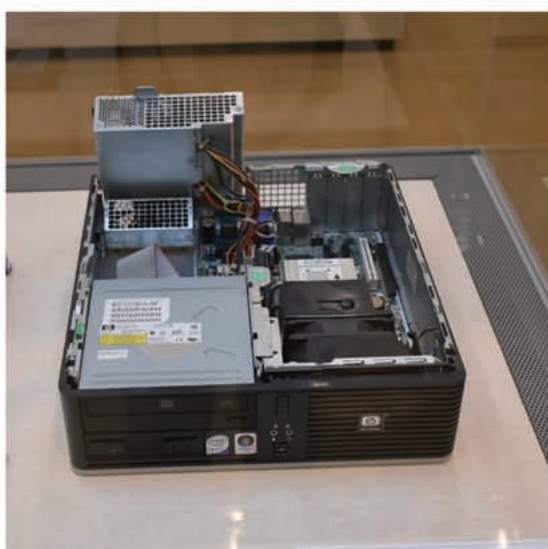


箱車(曹源寺)



## 【データボックスとしての】 【インターフェイスとしての】

博物館は、さまざまな地域情報を調査し、蓄積しています。整理されたデータはサーバーなどに「データボックス」として集積され、さらに各種の情報と関係づけられます。博物館は周辺のものを媒介し、リンクさせるインターフェイスとしての役割も果たすハコでもあります。



デスクトップパソコン(データボックスとしてのハコ2)



PCハードディスク(データボックスとしてのハコ1)

## 【「モノ」としての博物館】

「ハコモノ」とは本来はタンスや書棚など収納家具などを指す言葉。それが転じて、国や自治体の公共事業で建設される施設全般を「ハコモノ」と表記するようになった。建設に税金を投入しつとも有効に活用されない状況を「ハコモノ」行政と批判されることもある。

## みのかも文化の森 ①

みのかも文化の森も、「ハコモノ」の一つです。一九八三（昭和五八）年に計画が始まり、一九九八（平成一〇）年、建物が着工、一七年の歳月を経て二〇〇〇（平成一二）年一〇月にオープンしました。建築予算は約一八億円でした。



「みのかも文化の森」投書建築案に基づく模型  
（「ハコモノ」としての博物館Ⅰ）

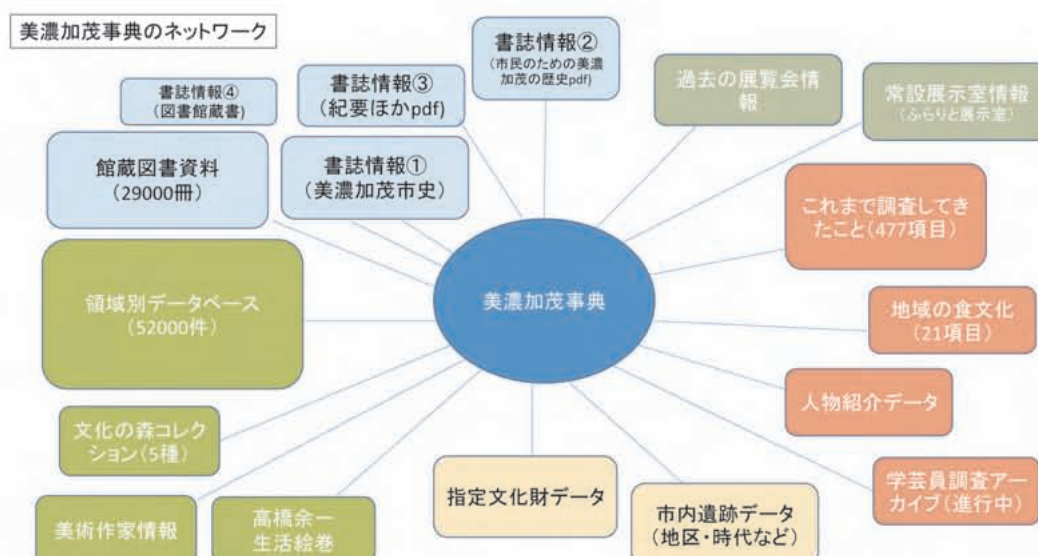
## みのかも文化の森 ②

建設の財源は美濃加茂市が積み立てたそれまでの「積立金」と「地域総合整備事業債」という、まちづくりを目的とする「借金」が主なものです。その事業債の特徴は、国からの地方交付税が四割以上措置される、つまり返済の多くを国が面倒見てくれるというものです。  
当時だけ存在した手厚い財政支援制度を利用してみのかも文化の森は建設されました。



## みのかも文化の森の「準備」と「今」

| 資料名                      | 内容                                                                                                                            | 発行年    |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 1 「(仮)文化の森=ニュース」         | 準備段階でその様子を伝えるために、手作りで作成したニュース。                                                                                                | 1997 年 |
| 2 「文化の森もうすぐまれます。」        | 建設の前年に、文化の森のイメージを伝えるために作成したもの。                                                                                                | 1999 年 |
| 3 『みのかも文化の森20周年記念誌』      | 文化の森開館 20 周年を迎え、これまでを振り返り、これから考えた冊子です。市民の方々から、ひとことメッセージを多数寄せていただきました。                                                         | 2020 年 |
| 4 『みのかも文化の森ビジョン』         | 開館 20 年を振り返り、博物館としての機能や役割を整理しました。理念や方針に基づいた今後のあり方や将来像を考え、現代的課題もみずえたこれらの取り組みなどを示しました。                                          | 2021 年 |
| 5 『みのかも文化の森年報』           | 毎年発行している報告書。博物館としての機能である「収集・保存」「調査研究」「展示」「教育」など活動全般をまとめ、アンケート結果など利用者からの評価も報告しています。                                            | 2021 年 |
| 6 『美濃加茂市民ミュージアム紀要』       | 毎年発行している調査研究のまとめ。館内学芸員のほか、館外の研究者からも寄稿をいただき、地域の拠点としての成果を蓄積しています。                                                               | 2022 年 |
| 7 『みのかも文化の森活用の手引き・活用実践集』 | みのかも文化の森の活動の大きな柱である「学校活用」に関して、その実践プログラムを教科ごとにまとめ、利用した子どもたちのアンケートなども紹介しています。                                                   | 2022 年 |
| 8 「美濃加茂辞典」(一部をプリントアウト)   | これまで調査蓄積してきた地域情報の辞典で、現在 858 件が登録されており、各種のデータベースとリンクが張り巡らされています。HP 上で更新されていく web 情報を部分的にプリントアウトしました。「美濃加茂版 Wikipedia」を目指しています。 | 2022 年 |





## 【―を訪ねる】

私たちの暮らす地域に古くから残り、現在も継続して一定の地域において呼称されるような「ハコ」という名前を冠した場所や風景。私たちがそれら現地に赴くことで、地域の人々がその場所とともに紡いできた時間を肌で感じ、その営みに思いを寄せることができるもの。

## 箱井の清水

美濃加茂市川合町。樹齢八〇〇年を超えるムクノキ近くの木曾川の川べりに「箱井の清水」があります。七つの箱型の水槽をそれぞれを人々は用途に応じて使い分け、野菜や食器、衣類を洗ったり、食べ物を冷やしたりしています。今渡ダムの建設に伴い水没することとなったため、現在の場所に移転されました。湧き水は市内に数多くありましたが、現在では川と人との関わりを偲ばせる数少ない場となっています。



箱井の清水

## 牧野の「筥岩」

美濃加茂市牧野地区、米田白山の南側のふもとにそそり立つ異様に巨大な岩。大きな箱のようなその岩は約2億年前のチャートでできており、古くから「筥岩」と親しみを込めて呼ばれてきました。高さは一六・二mで五階建てのビルにも相当します。頂上には祠が祀られており、地元の人たちは子どもの頃、藤のつるや木々を伝いながら、よくこの岩に登って遊んだそうです。現在、この岩の名がその場所の字名の由来にもなっています。



筥岩

## 三重県伊勢市河崎

三重県伊勢市河崎は勢田川の水運によつて栄えた商業の中心地で、伊勢春慶は明治一〇年代ごろからこの地に拠点を置きました。河崎では、勢田川の上流沿いに向かって右岸に、漆器などさまざまな品物を扱う問屋が立ち並び、川の対岸に職人たちが多く暮らしました。河崎では江戸・明治時代に建築された商家が伊勢河崎商人館として公開されており、当時の勢田川沿いに立ち並んだ商家の面影を感じることができます。



三重県伊勢市河崎



長野県木曽郡福島町

## 長野県木曽郡木曽町福島八沢

木曽春慶の中心地である長野県木曽福島町（現在の木曽町）の八沢地区。木曽絵を利用した絵物細工が古くから発達していました。八沢には漆を塗る前の木の器を作る木、地屋や漆を塗り製品を販売する塗師屋が建ち並び、天保十四年には町並み四六軒のうち、二九軒が漆器制作に携わっていたとされます。現在でも、数件の漆器店が残っています。八沢で作られた面桶、弁当箱、重箱、膳は岐阜県でも多く販売されていました。



アンケートボックス



博物館というハコには様々な機能や役割が詰まっています。しかし箱だからと言って、四角四面（しかくしめん）で角張った（かどばった・かくばった）場ではありません。つまり堅苦しかったり、窮屈だったりするのではなく、「面白さ」を感じる場所なのです。

みのかも文化の森・美濃加茂市民ミュージアムは、この箱に込められた人の思いや積み重ねを大切にしていきながら、さらに人々のワクワクする好奇心や、この地を見つめるきっかけにつながるよう模索を続けていきます。

決して形式ばることなく、柔軟で、なにより自由な「ハコ」として…。

2022（令和4）年7月 美濃加茂市民ミュージアム

## 小説『箱男』を読む

7月31日(日) 14:00～15:00

研修室

戦後を代表する日本の小説家・安部公房。その名作『箱男』から、独特の世界観や今に通じる人の在り方を感じます。段ボールの覗き窓から見つめた世界とは。

参加者：9人



段ボール箱を頭からすっぽりとかぶり、のぞき窓から外の世界をみつめて都市をさまよう「箱男」の記録の物語。「箱男」の書いた手記を軸に、突然の寓話や新聞記事などが差し込まれ、きわめて実験的な小説。贗箱男との錯綜した関係、看護婦との愛などが描かれるなかで、「見る」「見られる」という自他関係や、都市における不在証明など、社会や人間の本質的な部分を私たちに問いかける。



### 安部公房 (1924―1993)

東京出身。東京大学医学部卒。1951(昭和26)年「壁」で芥川賞を受賞。1962年に発表した『砂の女』は読売文学賞を受賞したほか、フランスでは最優秀外国文学賞を受賞。その他、戯曲「友達」で谷崎潤一郎賞、『緑色のストッキング』で読売文学賞を受賞するなど、受賞多数。1973年より演劇集団「安部公房スタジオ」を結成、独自の演劇活動でも知られる。海外での評価も極めて高く、1992(平成4)年にはアメリカ芸術科学アカデミー名誉会員に。1993年急性心不全で急逝。

(新潮文庫『箱男』より)

## ふらっとみゅーじあむ 「おっとびっくり!あけてもハコ!」

8月4日(木)・11日(木) 13:30~15:30

工芸室

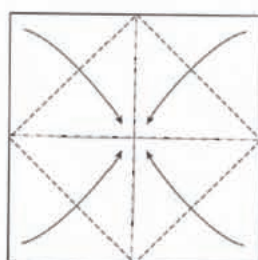
「ハコ展」で見つけたような美しい入れ子のハコを作しましょう。

参加者：4日・24人、11日・24人



## おっと!びっくり あけても ハコ!

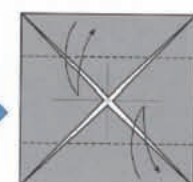
ま四角なハコのお折ってみよう。



1. のおりすじをしっかりとつける。
2. 4つのかどを、中心にあわせておる。



- 8 左右をうちがわにおりこむ。

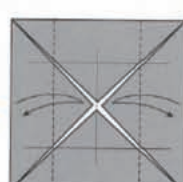


3. まん中にあわせて、おりすじをつける。

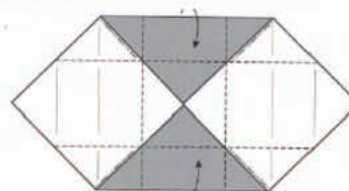


できあがり!

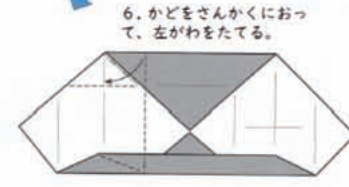
7. 右もろとおなじようにたてる。



4. まん中にあわせて、おりすじをつけ、左右にひらく



5. 上下をたてる。



6. かどをさんかくにおって、左がわをたてる。

- ◇正方形(ま四角)の紙を用意してね。
- ◇大きさを1センチメートル変えて折ると、「入れ子」のハコのできあがり!



## 四季を食べる講座 特別講座「おかつてのハコ」

8月6日(土) 10:30～13:00

生活体験館

昔のおかつて(台所)で大活躍したハコたち……。当日はハコに詰めて型を抜く“押し寿司”を調理し、かつての箱膳や重箱の使われ方等を紹介します。

参加者：9人

今回、伝承料理の会では、箱膳、キリダメ、重箱について、聞き取り調査をし、その思い出と使い方のお話を聞くことができました。

かつては重宝がられていたが、現代ではあまり使う事のなくなったハコや、何年もの間、使われ続けているハコ……。その蓋を開けて、中に詰まった何かを、この講座でご紹介できたらと思います。

また、酢飯と具を型に入れて作る押しずし(箱寿司)を皆さんで詰めていただき、お祭りや“人寄せ”の時に作られていた、彩豊かな押しずしを楽しんでいただけます。

(講座にて配布した冊子の「はじめに」より抜粋)



## 箱膳・キリダメ・重箱に関する聞き取り調査(一部)

「わたしが子供の頃、10歳くらいまでやったかな～。囲炉裏を囲んで、家族皆、箱膳やったね。正方形やったよ。おかずは大鉢にお母さんが作ったのを自分の小皿につけて(分けて)食べたわ。箱膳は食事の度にだしてきて、食事が終わったら、蓋してそのまま棚にしまう(片付ける)の。毎日は洗わんの。土間を建て替えてからはちゃぶ台になったね。」

Y・Hさん《女性》(昭和19年生)  
飛騨小坂出身 美濃加茂市本郷町在住

「実家の母(昭和11年生・美濃加茂市下米田町小山在住)に聞いた話やけど、キリダメは夏にそうめんやうどんを茹でたときに並べたそう。料理した時に、切った野菜をためとくのに使ったから、きりだめっていうんじゃないの?って。昔は家族が多かったやら?切った野菜も多かったから。お金持ち以外の人も持ってたんやと。塗やなくて木でできたやつで、洗って使ってたらしい。」

Y・Hさん《女性》(昭和19年生)  
飛騨小坂出身 美濃加茂市本郷町在住

「わたしたちは、お祭りのトウモロとなると、(同じ班の人は)皆さん、ひと重とかふた重(一段か二段)って言って、重箱の中に家庭料理を入れていったの。大変やけど、奥さんが作って(神事に行って宴会を済ませた旦那さんが)帰ってくると“全部うれた(食べてもらった)かな?”ってふたとって…。全部うれとるとあー良かったなって。中身はさつまいもの天ぷらとか……。でも、もお、大変やもんで、十年くらい前から、店で作ってもらうようになったやない?店のはきれいやけど、ちくわとか、こんにゃくとか、あの頃の方が良かった気がする。子ども産まれたときは“産まれたからよろしくね”って挨拶代わりにお重に赤飯入れて、南天の葉をのせて、(婚家の両親が)近所のちかしい親戚に持っていきようったよ。でも、それをもらうとお祝いを持っていかなあかんの。女の子やったらお雛様、男の子やったら鯉のぼりって。重箱は鯛のお砂糖を買って入れて返したおぼえがある。」

H・Kさん《女性》(昭和23年生)  
美濃加茂市蜂屋町生まれ蜂屋町在住

## 青空図書館 in 文化の森「ハコ展」

8月21日(日)

読み聞かせ：① 11:00～11:35

② 13:00～13:35

エントランスホール

「ハコ展」にちなんだ「青空図書館」が開館されます。

- ・ブラインドブック(一般・児童書・絵本)の貸出し
- ・おはなしボランティアさんの読み聞かせ

読み聞かせ参加者：① 子ども4人、大人3人

② 子ども6人、大人7人

全年齢  
対象

## 青空図書館

in文化の森 ハコ展

！よし借りて行こう

文化の森で行われているハコ展に合わせたイベント。  
おはなしボランティアによる読み聞かせ  
テーマ：ハコのおはなしはいっぱい！  
午前の部 11:00～11:30  
午後の部 13:00～13:30

本の貸出しは美濃加茂市立図書館もしくは坂井市中央公民館図書室の図書カードが必要です。  
青空図書館で借りた本は、美濃加茂市立図書館、坂井市中央公民館図書室で返却できます。

2022年8月21日(日)  
10:00～14:00  
文化の森エントランスホール  
美濃加茂市東図書館

## 読み聞かせ作品

竹下文子 「ハコちゃん」

村上しいこ 「れいぞうこのなつやすみ」

B. K. ウィルソン 「こねこのチョコレート」

湯本香樹実 「くまとやまねこ」



## ミュージアムトーク

7月23日(土) ① 11:00～ ② 13:00～

8月12日(金) ① 11:00～ ② 13:00～

### 展示室

担当学芸員が展示室をご案内いたします。  
お気軽にご来場ください。



ミュージアムトークを開催します。

担当学芸員が展示室をご案内いたします。

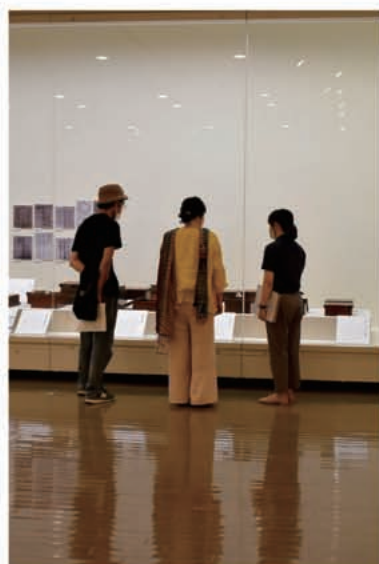
お気軽にご来場ください。

2022年7月23日(土) ① 11時～ ② 13時～

8月12日(金) ① 11時～ ② 13時～

※当日受付：会場にお集まりください

2022年度 東京大学文学部ミュージアム公開講座  
7.16～8.28



# 展示へのコメント・メッセージ

今回の展覧会にあたり、多くの方からコメント・メッセージをいただきましたので、一部をご紹介します。ありがとうございます。

弁当箱や筆筒などの企画展はこれまでもあったが「ハコ」という切口で収蔵資料を総ざらいした展示はきつとはじめてだ。こんな方法で、あらゆる基本的形態から物質文化を見直す作業が全国で進展したら、地域ならではの逸品の発見が促進され、モノと日本人、人類と道具の進化の歴史の解明や、道具の形態認識のあり方の理解にも大きな手がかりが得られるだろう。

武蔵野美術大学名誉教授 神野善治

モノとしての「はこ」をいろいろな角度からとらえ直し、いわゆる「箱」だけでない「ハコ」が一堂に介した「ハコ展」。その中に、いろいろな人の「ハコ」がエピソードを添えて展示されていたが、モノにまつわるコト（物語）の豊かさを改めて実感した。多様な視点と捉え方によって、モノそのものの価値まで変わっていくようだった。このような目に見えない、形のないものこそ、これからの博物館にとって重要になるのではないか。そんなことを考えさせてくれた展覧会だった。

結 Creation / 大阪市立自然史博物館 北村美香

「箱」に人が与えた機能と意味を、具象と抽象の視点で捉え、これまでにない切り口で構成された展覧会であった。容器としての箱、運搬具としての箱、目には見えない枠組みや制約としての箱、「そう言えばこれも箱だった。」と見る者に考えさせた。そして、最終的には、ハコモノと揶揄されがちな大型施設である博物館の、真の意味と価値にまで言及しようとした。この展覧会から、博物館が箱として歴史資料を保存し守る使命を果たしながら、蓋を開けてどう飛び出していけるかと、私は思いを馳せた。

一宮市尾西歴史民俗資料館 久保禎子

展示室に入つてまず笑った。ハコだらけだったからだ。次に感心した。ハコってこんなに違いがあるものなんだ。そして、最後に考えた。人類がハコを使うようになったのはなぜだろう？と。こんな身近なもので人類の歴史を感じさせる展覧会。目からウロコが落ちた。

南山大学文学部人間文化学科教授 黒澤浩

一周目、軽やかにデザインを楽しむ。二周目、道具として鑑賞する。使われてきた跡やきつちりと組み立てられた技術が目を引き。それぞれの生活風景を思い浮かべてみる。三周目、入れ物として眺める。こんな物を入れていたのかと大切にされてきた中身に関心が向く。ハコ展は多様な見方と多様な物語の複雑な入れ子の箱だった。

東京大学大学院客員研究員 佐藤優香

所蔵品の「箱膳」から始まり、ハコモノと揶揄されることもある自身のミュージアムまでをも取り込み、「ハコ」を多角的に、国語辞書的な展示デザインのサインも相まって「ハコ」観を深める仕掛けを見せてくれた。極みは、安倍公房の文学作品「箱男」の紹介だ。文中にある「箱の製法」に基づき再現したこと。私も「箱男」体験をし、満喫した。何しろ私の愛称は「はるこ」からの「ハコ」だったから、なおさら。「ハコ」に深淵さを見せてくれた。

雑誌「ミゼ」編集長 山下治子

「ハコ」を見る

【一で味わう】

| No | 資料名 | 員数 | 大きさ [cm]<br>(縦×横×高さ) | 所蔵  | 備考 | キャプション                                                                               |
|----|-----|----|----------------------|-----|----|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 箱膳  | 1  | 25.5×25.8×10.0       | 館蔵  |    | 箱膳の蓋は「かぶせ蓋」になっていて、蓋の端が少し削られています。蓋をひっくり返して箱の上に乗せた時、ずれてしまわないようになっています。                 |
| 2  | 箱膳  | 1  | 25.0×25.5×10.5       | ※ 1 |    |                                                                                      |
| 3  | 箱膳  | 1  | 27.2×27.0×11.0       | 館蔵  |    | 箱膳の中に入れる食器は主に、茶碗、汁椀、小皿とされています。家庭によって汁椀が木の椀であったり、陶器の椀であったりしました。湯呑みを入れる場合もあったようです。     |
| 4  | 箱膳  | 1  | 25.5×25.5×10.2       | ※ 2 |    |                                                                                      |
| 5  | 箱膳  | 1  | 25.5×25.8×10.2       | ※ 2 |    |                                                                                      |
| 6  | 箱膳  | 1  | 26.8×27.0×10.7       | ※ 2 |    |                                                                                      |
| 7  | 箱膳  | 1  | 25.5×25.6×10.7       | ※ 1 |    |                                                                                      |
| 8  | 箱膳  | 1  | 24.0×24.1×9.8        | ※ 1 |    |                                                                                      |
| 9  | 箱膳  | 1  | 24.0×24.4×9.3        | 館蔵  |    | 箱膳の中を覗くと、四つの跡が残っています。食器を少なくとも四つしまっていたことがわかります。箱膳に残る傷や跡から、当時の人の暮らしを想像することができます。       |
| 10 | 箱膳  | 1  | 27.0×27.1×11.7       | ※ 1 |    |                                                                                      |
| 11 | 箱膳  | 1  | 23.8×23.0×10.0       | 館蔵  |    |                                                                                      |
| 12 | 箱膳  | 1  | 25.5×25.5×39.0       | ※ 1 |    |                                                                                      |
| 13 | 箱膳  | 1  | 26.8×27.0×11.1       | ※ 1 |    |                                                                                      |
| 14 | 箱膳  | 1  | 26.0×25.3×10.2       | 館蔵  |    | 箱膳の裏にはこの様に商標印が押されていることもあります。この商標は三重県伊勢市川崎にある漆器問屋「角仙」のもので昭和に作られた箱膳であることがわかります。        |
| 15 | 箱膳  | 1  | 27.1×27.1×10.7       | ※ 1 |    |                                                                                      |
| 16 | 箱膳  | 1  | 25.2×25.5×10.8       | ※ 2 |    |                                                                                      |
| 17 | 箱膳  | 1  | 23.7×23.7×9.8        | 館蔵  |    |                                                                                      |
| 18 | 箱膳  | 1  | 29.5×29.4×21.0       | 館蔵  |    | 箱膳の中には引き出し付きのものもありました。この箱膳は外側が黒、内側は赤の漆で塗られていて、他の箱膳に比べると豪華な作りになっています。家長が使っていたのかもしれない。 |

|    |           |   |                |     |      |                                                                                                                               |
|----|-----------|---|----------------|-----|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 19 | 弁当箱       | 1 | 9.0×18.2×19.6  | ※ 2 |      |                                                                                                                               |
| 20 | 弁当箱       | 1 | 9.2×19.9×9.4   | ※ 2 |      |                                                                                                                               |
| 21 | 弁当箱       | 1 | 21.0×20.0×25.4 | 館蔵  |      |                                                                                                                               |
| 22 | 重箱        | 1 | 17.0×19.0×7.0  | 館蔵  |      | 種々の料理を入れる器。同じ大きさの箱を重ね一番上に蓋をしました。重ねる段数によって二段重、三段重、五段重などの種類があります。お祝い事の際には赤飯を詰めて配られることが多くありました。貰った側は空になった重箱にマッチを入れて返す風習があったようです。 |
| 23 | 重箱        | 1 | 16.8×18.2×5.8  | 館蔵  |      |                                                                                                                               |
| 24 | 重箱        | 1 | 17.0×22.2×8.8  | ※ 2 |      |                                                                                                                               |
| 25 | キリダメ (切溜) | 1 | 24.5×36.5×21.6 | 館蔵  |      |                                                                                                                               |
| 26 | キリダメ (切溜) | 1 | 41.5×29.3×24.3 | 館蔵  |      |                                                                                                                               |
| 27 | キリダメ (切溜) | 1 | 27.0×39.5×38.0 | 館蔵  |      |                                                                                                                               |
| 28 | キリダメ (切溜) | 1 | 27.7×39.0×34.0 | 館蔵  |      |                                                                                                                               |
| 29 | キリダメ (切溜) | 1 | 28.0×40.5×38.4 | ※ 1 |      |                                                                                                                               |
| 30 | 入れ子       | 1 | 32.9×40.0×17.0 | ※ 1 | 蓋、本体 |                                                                                                                               |
| 32 | 入れ子       | 4 | 18.4×26.3×8.7  | ※ 2 |      |                                                                                                                               |
| 33 | 入れ子       | 1 | 32.8×39.0×14.8 | ※ 2 | 蓋、本体 |                                                                                                                               |
| 34 | くるみ膳      | 1 | 27.0×27.0×4.0  | ※ 1 |      | 半分に割ったくるみの殻が脚として四隅に取り付けられた膳。日常の食事で利用されました。重ねて収納でき、場所をとらないので工場や商家など大勢が食事をする場でも使われました。                                          |
| 35 | くるみ膳      | 1 | 27.3×27.2×3.3  | ※ 1 |      |                                                                                                                               |
| 36 | くるみ膳      | 2 | 27.2×27.2×3.7  | ※ 1 |      |                                                                                                                               |
| 37 | 切貝膳       | 1 | 29.5×29.4×7.1  | 館蔵  |      |                                                                                                                               |
| 38 | 弁当箱       | 1 | 15.0×10.1×3.0  | 館蔵  |      |                                                                                                                               |
| 39 | 弁当箱       | 1 | 9.8×13.8×4.0   | 館蔵  |      |                                                                                                                               |
| 40 | 弁当箱       | 1 | 10.5×14.8×3.0  | 館蔵  |      |                                                                                                                               |
| 41 | 弁当箱       | 1 | 14.3×9.8×3.0   | 館蔵  |      |                                                                                                                               |
| 42 | 弁当箱       | 1 | 14.3×9.8×4.0   | 館蔵  |      |                                                                                                                               |
| 43 | 弁当箱       | 3 | 11.6×17.9×5.2  | 館蔵  |      |                                                                                                                               |
| 44 | 弁当箱       | 1 | 14×9.5×3.2     | 館蔵  |      |                                                                                                                               |
| 45 | 弁当箱       | 1 | 13.8×10×7.5    | 館蔵  |      |                                                                                                                               |
| 46 | 弁当箱       | 1 | 6.2×11.6×2.0   | 館蔵  |      |                                                                                                                               |
| 47 | 弁当箱       | 1 | 9.0×12.2×4.0   | 館蔵  |      |                                                                                                                               |
| 48 | 弁当箱       | 1 | 10.4×14.8×3.1  | 館蔵  |      |                                                                                                                               |
| 49 | 弁当箱       | 1 | 13.0×18.8×2.7  | 館蔵  |      |                                                                                                                               |

ハコ展 ～ 箱膳から「ハコモノ」まで

|    |     |   |               |    |  |                                                                      |
|----|-----|---|---------------|----|--|----------------------------------------------------------------------|
| 50 | 弁当箱 | 1 | 11.0×7.0      | 館蔵 |  |                                                                      |
| 51 | 弁当箱 | 1 | 12.9×18.8×7.0 | 館蔵 |  | 箱膳の蓋は「かぶせ蓋」になっていて、蓋の端が少し削られています。蓋をひっくり返して箱の上に乗せた時、ずれてしまわないようになっています。 |

小計 56 点

| No | 資料名    | 員数 | 大きさ [cm]<br>(縦×横×高さ) | 所蔵 | 備考       | キャプション                                                                                  |
|----|--------|----|----------------------|----|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 銭箱     | 1  | 3.2×22.7×20.0        | 館蔵 | 「嘉永 7 年」 | 小銭を入れておく木箱で、蓋部分に小銭を入れるための穴が開いています。また、背面には「嘉永七年甲寅」と書かれています。西暦 1854 年に製作されたようです。          |
| 2  | 牛乳入れ   | 1  | 14.0×20.5×26.5       | 館蔵 |          |                                                                                         |
| 3  | 金庫     | 1  | 23.0×34.3×14.0       | 館蔵 |          |                                                                                         |
| 4  | 小鳥箱    | 1  | 34.5×30.2×44.0       | 館蔵 |          |                                                                                         |
| 5  | パン屋のハコ | 1  | 65.0×36.2×25.0       | 館蔵 |          |                                                                                         |
| 6  | 蝇帳     | 1  | 46.0×46.0×91.0       | 館蔵 |          | 中に食べ物を入れて使います。金網が貼られているのでハエが寄り付かず、また風通しが良いので食べ物の腐敗を遅らせる効果がありました。扉や引き出しにはガラスの取っ手が付いています。 |
| 7  | 木製冷蔵庫  | 1  | 41.0×43.2×50.2       | 館蔵 |          | 氷を入れて中を冷やして使いました。内側にはブリキ板が貼られていて、断熱効果がありました。                                            |
| 8  | 投票箱    | 1  | 44.3×31.4×42.0       | 館蔵 |          | 蓋に「衆議院議員投票函」とあります。角に金属板が貼られ、内蓋には三ヶ所鍵をかける場所があって投票用紙を厳重に保護していたことがわかります。伊深村役場で使用されていました。   |

小計 8 点

| No | 資料名    | 員数 | 大きさ [cm]<br>(縦×横×高さ) | 所蔵 | 備考 | キャプション |
|----|--------|----|----------------------|----|----|--------|
| 1  | マス     | 4  | 17.0×17.0×9.0        | 館蔵 |    |        |
| 2  | 一斗マス   | 1  | 35.5×35.5×25.0       | 館蔵 |    |        |
| 3  | 電気あんま  | 1  | 17.0×19.2×19.5       | 館蔵 |    |        |
| 4  | サバ寿司の箱 | 1  | 24.3×45.2×20.5       | 館蔵 |    |        |

展示品リスト

|    |        |   |                |    |  |                                                                         |
|----|--------|---|----------------|----|--|-------------------------------------------------------------------------|
| 5  | 箱枕     | 2 | 6.0×15.2×9.3   | 館蔵 |  | 直方体の箱枕。こういった背の低い枕は、主に男性が用いました。このうちの一つに焼き印があり、伊勢の漆塗りであることが分かります。         |
| 6  | 箱枕     | 1 | 6.5×22.5×15.5  | 館蔵 |  |                                                                         |
| 7  | 箱枕     | 1 | 5.5×20.0×9.3   | 館蔵 |  |                                                                         |
| 8  | 箱枕     | 1 | 5.3×22.0×11.0  | 館蔵 |  | 漆塗りで扇と鶴の絵柄があらわれた箱枕。底が船底のように丸くカーブしており（船底枕）、左右に揺れ、スムーズに寝返りができるよう工夫されています。 |
| 9  | 角せいろ   | 1 | 38.0×42.0×52.8 | 館蔵 |  |                                                                         |
| 10 | トウフ作り器 | 1 | 23.8×48.0×24.6 | 館蔵 |  |                                                                         |

小計 14 点

【一にしまう】

| No | 資料名                  | 員数 | 大きさ [cm]<br>(縦×横×高さ) | 所蔵 | 備考                           | キャプション                                                                                  |
|----|----------------------|----|----------------------|----|------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 硯箱                   | 1  | 23.0×13.5×4.5        | 館蔵 |                              |                                                                                         |
| 2  | 文書箱                  | 1  | 53.0×30.0×49.2       | 館蔵 |                              | 引き出しと蓋があり、鍵もかかります。引き出しにはラベルが貼られています。金属の取手の代わりに紐が取り付けられている引き出しもあり、長い間大切に使われていた様子がうかがえます。 |
| 3  | 帽子箱                  | 1  | 28.5×32.5×27.8       | 館蔵 | 「明治三十年」                      | 帽子を保管、輸送するための箱。この帽子の持ち主は、箱の裏側に、買った帽子の種類や購入した日、金額、買った場所などを書き残していました。                     |
| 4  | 帽子箱                  | 1  | 29.0×32.8×27.0       | 館蔵 |                              |                                                                                         |
| 5  | 文箱                   | 1  | 30.0×37.0×16.7       | 館蔵 |                              |                                                                                         |
| 6  | 針箱                   | 1  | 16.7×30.7×25.0       | 館蔵 |                              |                                                                                         |
| 7  | 針箱                   | 1  | 11.0×16.3×16.7       | 館蔵 |                              |                                                                                         |
| 8  | 針箱                   | 1  | 17.8×17.7×20.2       | 館蔵 |                              | 裁縫道具をしまうための箱です。2段目の引き出しには、「兎袋」や「たこ袋」と題名のつけられた手描きの型紙が入っています。                             |
| 9  | コースター入れの箱            | 1  | 10.0×12.5×14.0       | 館蔵 |                              |                                                                                         |
| 10 | アイロンの箱               | 1  | 9.6×11.7×13.5        | 館蔵 |                              |                                                                                         |
| 11 | 国旗入れの箱               | 1  | 9.0×32.0             | 館蔵 |                              |                                                                                         |
| 12 | 救急箱                  | 1  | 31.9×41.8×28.0       | 館蔵 |                              |                                                                                         |
| 13 | 旧古井村田畑組<br>「封じ込み書類」箱 | 1  | 37.0×30.0×22.0       | 館蔵 | 「大正三年」<br>美濃加茂市<br>古井町田畑組 寄贈 |                                                                                         |

ハコ展 ～箱膳から「ハコモノ」まで

|    |         |   |                 |    |      |                                                                                                                  |
|----|---------|---|-----------------|----|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 14 | 籐行李     | 1 | 56.5×37.3×22.0  | 館蔵 |      |                                                                                                                  |
| 15 | 行李      | 1 | 58.0×38.5×24.0  | 館蔵 |      |                                                                                                                  |
| 16 | 膳をしまう木箱 | 1 | 35.6×35.3×91.7  | 館蔵 |      | 蓋には「溜内溜 輪島 本膳椀五人前」と書かれています。中には五人分の膳と椀類、おひつが一つ入っています。漆塗りの膳は祝い事や来客に対して使われました。                                      |
| 17 | 「ガンガン」  | 1 | 74.3×37.6×29.0  | 館蔵 |      |                                                                                                                  |
| 18 | 船用櫃     | 1 | 39.0×68.8×41.0  | 館蔵 |      |                                                                                                                  |
| 19 | 薬箱      | 1 | 22.8×19.5×12.0  | 館蔵 |      |                                                                                                                  |
| 20 | 薬箱      | 1 | 22.0×23.5×14.5  | 館蔵 |      |                                                                                                                  |
| 21 | 薬箱      | 1 | 24.0×18.2×3.0   | 館蔵 |      |                                                                                                                  |
| 22 | 薬箱      | 1 | 21.7×16.6×9.8   | 館蔵 |      |                                                                                                                  |
| 23 | 薬箱      | 1 | 23.0×19.0×11.3  | 館蔵 |      |                                                                                                                  |
| 24 | 薬箱      | 1 | 23.0×18.7×12.0  | 館蔵 |      |                                                                                                                  |
| 25 | 柄鏡と鏡箱   | 1 | 39.0×27.0×31.0  | 館蔵 | 江戸時代 | 和鏡は、室町時代後期になるとそれまでの円鏡から柄鏡へと形状が変わってきます。江戸時代には婚礼道具の一つとして、鏡背にさまざまな寿模様が用いられるようになりました。鏡を収める箱も漆が塗られ蒔絵が施されるなど豪華に造られました。 |
| 26 | 長持      | 1 | 70.0×166.0×72.0 | 館蔵 |      | 黒漆塗りの長持。長さ五尺（約151.5 cm）前後、幅と高さが二尺（約60.6 cm）前後というのが長持の一般的な大きさといわれています。                                            |
| 27 | 長持      | 1 | 60.0×144.0×60.0 | 館蔵 |      |                                                                                                                  |

小計 27 点

【一で運ぶ】

| No | 資料名       | 員数 | 大きさ [cm]<br>(縦×横×高さ) | 所蔵 | 備考 | キャプション                                                                                |
|----|-----------|----|----------------------|----|----|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 行器（ほかい）   | 1  | 34.5×35.0×35.0       | 館蔵 |    | 食べ物を入れる容器。遠出するときや婚礼のときなどに使用しました。行器の歴史は古く、平安時代初期にはすでに使われていたそうです。この行器は伊深村の桜井家で使われていました。 |
| 2  | 写真機を持ち運ぶ箱 | 1  | 19.5×26.5×24.8       | 館蔵 |    |                                                                                       |
| 3  | 道具箱       | 1  | 26.3×65.0×11.5       | 館蔵 |    | 大工道具を入れて置く箱で、使う道具をこの箱にしまい、作業場所まで持ち運ぶためにも利用しました。                                       |
| 4  | 紙芝居の箱     | 1  | 50.0×11.2×39.6       | 館蔵 |    |                                                                                       |
| 5  | カバン       | 1  | 12.5×43.5×26.0       | 館蔵 |    |                                                                                       |

展示品リスト

|    |           |   |                |    |                |                                                                                           |
|----|-----------|---|----------------|----|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6  | 郵便小包      | 1 | 23.0×17.0×9.5  | 館蔵 |                |                                                                                           |
| 7  | 日本名所図繪の箱  | 1 | 17.5×12.0×19.4 | 館蔵 |                | 箱の中には『日本名所図繪』が 6 冊入っています。側面に書かれた文字から明治 30 年のものとわかります。箱には取っ手がついています。箱とともに旅行に出かけたのかもしれませんが。 |
| 8  | 手紙箱       | 1 | 24.0×8.7×4.6   | 館蔵 |                |                                                                                           |
| 9  | ビール箱      | 1 | 16.0×16.0×32.5 | 館蔵 |                |                                                                                           |
| 10 | 馬匹徴発用状箱   | 1 | 6.0×27.0×15.0  | 館蔵 | 明治末期、旧古井村役場旧蔵  | 戦時中に徴発されるのは、人だけでなく、馬も例外ではありませんでした。軍からの通達書はこの箱に入れ運ばれ、馬の飼い主に手渡しました                          |
| 11 | おかもち      | 1 | 28.5×34.0×20.7 | 館蔵 |                |                                                                                           |
| 12 | 筆箱        | 1 | 22.0×6.0×20.0  | 館蔵 |                |                                                                                           |
| 13 | 筆箱        | 1 | 21.8×6.0×18.0  | 館蔵 |                |                                                                                           |
| 14 | 釣り道具を運ぶハコ | 1 | 27.3×20.3×6.5  | 館蔵 |                |                                                                                           |
| 15 | 召集用状箱     | 1 | 7.2×26.5×11.2  | 館蔵 | 明治末期、旧山之上村役場旧蔵 | 使丁が召集令状を入れて運んだ箱です。側面には「鄭重に扱うべし」などと注意書きがいくつも列記され、いかにこの用務が重要であったかを物語っています。                  |
| 16 | 召集用状箱     | 1 | 7.2×26.5×11.1  | 館蔵 | 明治末期、旧伊深村役場旧蔵  |                                                                                           |
| 17 | 召集用状箱     | 1 | 7.2×26.5×11.0  | 館蔵 | 明治末期、旧古井村役場旧蔵  |                                                                                           |

小計 17 点

【一に詰める】

| No | 資料名         | 員数 | 大きさ [cm]<br>(縦×横×高さ) | 所蔵 | 備考 | キャプション |
|----|-------------|----|----------------------|----|----|--------|
| 1  | リング箱        | 1  | 64.0×30.0×31.2       | 館蔵 |    |        |
| 2  | リング箱        | 1  | 64.0×30.0×30.7       | 館蔵 |    |        |
| 3  | 茶箱          | 1  | 47.5×43.1×48.4       | 館蔵 |    |        |
| 4  | 鶏肉照り焼きの木箱   | 1  | 45.0×35.0×30.3       | 館蔵 |    |        |
| 5  | 森永ドライミルクの木箱 | 1  | 51.3×34.3×19.8       | 館蔵 |    |        |

小計 5 点

ハコ展 ～箱膳から「ハコモノ」まで

| No | 資料名               | 員数 | 大きさ [cm]<br>(縦×横×高さ) | 所蔵 | 備考                | キャプション                                                                      |
|----|-------------------|----|----------------------|----|-------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 1  | ハンドミキサーの箱         | 1  | 27.0×12.3×6.5        | 館蔵 |                   |                                                                             |
| 2  | 鉛筆の箱              | 1  | 2.4×18.0×1.5         | 館蔵 |                   |                                                                             |
| 3  | マッチ箱              | 1  | 9.0×11.2×4.8         | 館蔵 |                   |                                                                             |
| 4  | チュウインガムの箱         | 1  | 15.8×23.7×4.2        | 館蔵 |                   |                                                                             |
| 5  | カルタの箱             | 1  | 8.0×11.5×7.5         | 館蔵 |                   |                                                                             |
| 6  | 「クレパス」の箱          | 1  | 9.0×33.0×1.5         | 館蔵 |                   |                                                                             |
| 7  | 昆虫採集セットの箱         | 1  | 10.2×19.2×2.5        | 館蔵 |                   |                                                                             |
| 8  | 彫刻刀の箱             | 1  | 14.5×7.0×3.1         | 館蔵 |                   |                                                                             |
| 9  | ベビーパウダーの箱         | 1  | 8.5×7.0              | 館蔵 |                   |                                                                             |
| 10 | 蚊取り線香の箱           | 1  | 12.5×12.5×3.3        | 館蔵 |                   |                                                                             |
| 11 | 伊深温泉のマッチ箱         | 1  | 5.5×3.6×1.0          | 館蔵 |                   |                                                                             |
| 12 | 蜂屋柿化粧箱            | 1  | 26.7×23.0×5.7        | 館蔵 |                   | 蜂屋柿を売り出すための製品箱。中には由来略書が入っています。表面のデザインは柿にまつわる様々な図柄とともに華やかで鮮明な色使いの工夫がなされています。 |
| 13 | 図録『蜂屋柿—その歴史と人々—展』 | 1  | 30.0×26.0            | 館蔵 | 2008 年<br>(平成20年) |                                                                             |

小計 13 点

| No | 資料名            | 員数 | 大きさ [cm]<br>(縦×横×高さ) | 所蔵 | 備考 | キャプション |
|----|----------------|----|----------------------|----|----|--------|
| 1  | 百人一首が入っているクシ入れ | 1  | 25.5×11.5×4.5        | 館蔵 |    |        |
| 2  | 日章旗が入っている豆菓子の箱 | 1  | 21.0×13.7×3.0        | 館蔵 |    |        |
| 3  | 英単語帳が入っている石鹸の箱 | 1  | 17.8×9.2×2.9         | 館蔵 |    |        |
| 4  | 英単語帳が入っている缶の箱  | 1  | 16.5×7.0×2.5         | 館蔵 |    |        |
| 5  | 裁縫箱として使われた銭箱   | 1  | 31.7×20.4×23.4       | 館蔵 |    |        |
| 6  | ペンが入っている焼香の箱   | 1  | 20.6×15.0×6.8        | 館蔵 |    |        |

小計 6 点

## 【一をさまざまに使う】

| No | 資料名 | 員数 | 大きさ [cm]<br>(縦×横×高さ) | 所蔵 | 備考 | キャプション                                                                    |
|----|-----|----|----------------------|----|----|---------------------------------------------------------------------------|
| 1  | 箱階段 | 1  | 162.0×91.0×226.0     | 館蔵 |    | 市内古井地区の旧家にあったもの。階段の下空間を有効利用する目的で、抽斗（ひきだし）や戸棚を取り付けた筆筒。江戸時代初期、狭い町屋などに登場します。 |
| 2  | 具足櫃 | 1  | 42.0×45.0×55.5       | 館蔵 |    |                                                                           |
| 3  | 箱びな | 1  | 27.5×40.2×46.2       | 館蔵 |    |                                                                           |
| 4  | 箱びな | 1  | 27.4×40.3×46.4       | 館蔵 |    |                                                                           |

小計 4 点

## 【鈴木源吾の一】

| No | 資料名        | 員数 | 大きさ [cm]<br>(縦×横×高さ) | 所蔵 | 備考 | キャプション |
|----|------------|----|----------------------|----|----|--------|
| 1  | 記念品の箱      | 1  | 15.2×19.5×9.3        | 館蔵 |    |        |
| 2  | 記念品の箱      | 1  | 21.0×7.0×10.0        | 館蔵 |    |        |
| 3  | 小物入れ       | 1  | 13.6×20.5×5.3        | 館蔵 |    |        |
| 4  | 勲六等瑞寶章の箱   | 1  | 9.8×6.3×2.2          | 館蔵 |    |        |
| 5  | 勲二等旭日重光章の箱 | 1  | 23.0×11.3×4.5        | 館蔵 |    |        |
| 6  | 小物入れ       | 1  | 10.5×20.0×4.7        | 館蔵 |    |        |

小計 6 点

## 「ハコ」を考える

## 【文学の一】

| No | 資料名               | 員数 | 大きさ [cm]<br>(縦×横×高さ) | 所蔵 | 備考                 | キャプション |
|----|-------------------|----|----------------------|----|--------------------|--------|
| 1  | 『箱男』              | 1  | 20.2×14.2×2.4        | 館蔵 | 1973 年<br>(初版)     |        |
| 2  | 『産経新聞』切り抜きコラム「読書」 | 1  | —                    | 館蔵 | 1973 年<br>4 月 23 日 |        |

小計 2 点

## 【博物館の一】

| No | 資料名    | 員数 | 大きさ [cm]<br>(縦×横×高さ) | 所蔵 | 備考 | キャプション                                                                |
|----|--------|----|----------------------|----|----|-----------------------------------------------------------------------|
| 1  | 「テンバコ」 | 1  | 59.0×38.6×15.4       | 館蔵 |    | テンバコシリーズ。前面にはカード受けがあり、遺跡名などのカードを挟むことで管理が容易になります。ロックフタも付属で活用することもできます。 |

ハコ展 ～箱膳から「ハコモノ」まで

|    |                   |   |                |    |  |                                                                                                |
|----|-------------------|---|----------------|----|--|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2  | 「ポリテナー」           | 7 | 45.0×35.0×13.0 | 館蔵 |  | あらゆる産業の生産・搬送・保管などの現場においても用いられるポリテナー。サイズ、カラーのバリエーションが豊富で優れた耐久性をそなえています。                         |
| 3  | 文書箱（大型）           | 3 | 52.0×38.5×26.0 | 館蔵 |  | 資料への影響の少ない中性（厳密には弱アルカリ性）の段ボール（アーカイバルボード）を使用している「もんじょ箱」。                                        |
| 4  | 文書箱（新聞用）          | 3 | 63.5×48.5×11.0 | 館蔵 |  | 新聞、絵画や工芸品用の大きなサイズ。製造会社によれば、この文書箱の最大積載数は21段（内容物13kgの場合）で、強度は一般の段ボールの2～4倍あるといえます。                |
| 5  | 文書箱（小型）           | 3 | 31.5×24.0×6.0  | 館蔵 |  |                                                                                                |
| 6  | 標本箱（ドイツ箱）         | 1 | 44.0×60.0×6.0  | 館蔵 |  |                                                                                                |
| 7  | 標本箱（ドイツ箱）         | 1 | 41.0×51.0×6.0  | 館蔵 |  |                                                                                                |
| 8  | 標本箱（ドイツ箱）         | 2 | 18.0×24.0×7.0  | 館蔵 |  | 二重構造の箱によって外から這い伝ってきた害虫の侵入を防ぐ構造になっています。標本の作製者により底面に方眼紙が敷かれていました。                                |
| 9  | 印籠箱               | 1 | 31.0×21.0×6.0  | 館蔵 |  | 印籠箱とも呼ばれる標本箱。蓋、本体ともに桐製で、標本の保管に特化した仕様です。一定の向きでしかはまらないような仕組みとなっていて、その密閉性を保っています。                 |
| 10 | 「桐箱」              | 1 | 14.7×14.7×17.7 | 館蔵 |  | 岐阜県出身の陶芸家・中島正雄（1921－2014）作。黄瀬戸の香炉が入っている桐箱です。                                                   |
| 11 | 「桐箱」              | 1 | 58.2×7.7×7.4   | 館蔵 |  | 坪内逍遙（1859－1935）の筆と思われる「来の宮鹿嶋踊の唄」を保管する桐箱。                                                       |
| 12 | 「桐箱」              | 1 | 26.3×6.0×6.0   | 館蔵 |  | 岡本かの子（1889－1939）の逝去後、夫の岡本一平と息子の太郎が生前に記した観音経を「記念として複製した」桐箱。蓋の裏には「昭和14年夏」の年記と、岡本一平の署名と印が押されています。 |
| 13 | 「桐箱」              | 1 | 36.2×25.0×18.0 | 館蔵 |  | 加茂郡古井町出身の書家・座馬井邨（1916－2015）が91歳のときに書いた歌集「春呼ぶ使者」。この桐箱は上下の二段になっており、計6巻の卷子本を一度に保管することができます。       |
| 14 | ダブルの段ボール板シート      | 3 | 190.0×100.0    | 館蔵 |  |                                                                                                |
| 15 | まんじゅう箱            | 1 | 50.0×60.0×8.0  | 館蔵 |  |                                                                                                |
| 16 | 「ハコ展」の資料を梱包し輸送した箱 | 1 | 40.6×51.0×32.7 | 館蔵 |  |                                                                                                |

展示品リスト

|    |             |   |                |    |  |                                                                                        |
|----|-------------|---|----------------|----|--|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 17 | 展示ケース       | 1 | 89.5×180×104.0 | 館蔵 |  | 傾斜型の展示ケース。これは機密性の高いエアタイトケースであり、ケース下部の箱に調湿材を入れることもできます。ガスダンパーが採用され、ガラス扉を用意に開閉することが可能です。 |
| 18 | アンケート回収 BOX | 1 | 31.0×30.0×20.0 | 館蔵 |  | 来館者された方のご意見や感想の記されたアンケートを入れる箱。ヒントや改善につながる貴重な声や考えが入っているととても大切な箱です。                      |

小計 33 点

| No | 資料名                                      | 員数 | 大きさ [cm]<br>(縦×横×高さ) | 所蔵 | 備考         | キャプション                                                                                                                                               |
|----|------------------------------------------|----|----------------------|----|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | PC ハードディスク                               | 1  | 14.5×11.5×2.5        | 館蔵 | 2008 年頃    |                                                                                                                                                      |
| 2  | デスクトップパソコン<br>( HP dc5800 SFF E4600 80G) | 1  | 38.5×34.5×10.0       | 館蔵 | 2008 年 8 月 | Hewlett-Packard Japan 社製。ハードディスクの情報を、読み込んだり書き込んだりするための電源や基盤などが入っている箱。                                                                                |
| 3  | デスクトップパソコン<br>(Power Mac G4)             | 1  | 47.0×22.5×43.5       | 館蔵 | 2000 年頃    | Power Mac G4 は、アップル社が 2000 年に発売したモデルで、当時驚異的なパフォーマンスを実現しました。美濃加茂市民ミュージアムでは、2000 年の開館時からデータベースの作成、展示パネルやグラフィック資料、ミュージアムニュースの作成のために重宝しましたが、現在は使用していません。 |

小計 3 点

| No | 資料名                   | 員数 | 大きさ [cm]<br>(縦×横×高さ) | 所蔵 | 備考      | キャプション |
|----|-----------------------|----|----------------------|----|---------|--------|
| 1  | 「みのかも文化の森」当初建築案に基づく模型 | 1  | 56.0×81.0×11.0       | 館蔵 | 1990 年頃 |        |
| 2  | 「(仮)文化の森ニュース」         | 1  | —                    | 館蔵 | 1997 年  |        |
| 3  | 「文化の森もうすぐうまれます。」      | 1  | —                    | 館蔵 | 1999 年  |        |
| 4  | 『みのかも文化の森 20 周年記念誌』   | 1  | —                    | 館蔵 | 2020 年  |        |
| 5  | 『みのかも文化の森ビジョン』        | 1  | —                    | 館蔵 | 2021 年  |        |
| 6  | 『みのかも文化の森年報』          | 1  | —                    | 館蔵 | 2021 年  |        |

ハコ展 ～箱膳から「ハコモノ」まで

|   |                            |   |   |    |        |  |
|---|----------------------------|---|---|----|--------|--|
| 7 | 『美濃加茂市民ミュージアム紀要』           | 1 | — | 館蔵 | 2022 年 |  |
| 8 | 『みのかも文化の森活用<br>の手引き・活用実践集』 | 1 | — | 館蔵 | 2022 年 |  |
| 9 | 「美濃加茂事典」(一部<br>をプリントアウト)   | 1 | — | 館蔵 | 2022 年 |  |

小計 8 点

## 参考文献

展覧会の開催にあたり参考にした書籍や文献など（順不同）

- ・ 木曾福島町教育委員会編『木曾福島町史 第三卷（現代編Ⅱ）』（木曾福島町、1983）
- ・ 木曾福島町史編纂委員会編『木曾福島町史』（福島町、1954）
- ・ 沢口悟一『日本漆工の研究』（株式会社美術出版社、1966）
- ・ 岩井宏實 監修『絵引 民具の事典【普及版】イラストでわかる日本伝統の生活道具』（工藤員功 編、中林啓治 画、河出書房新社、2017）
- ・ 小泉和子『日本史小百科〈家具〉』（東京堂出版、1980）
- ・ 平田哲生、嶋村博、岡本信也 共著『転用のデザイン くらしの宝箱』（野外活動研究会 転用研究班、1989）
- ・ 宇治山田市編『宇治山田市史 上巻』（三宅書店、1972、復刻版）
- ・ 『ものと人間の文化史 131-II・漆 II』（法政大学出版局、2006）
- ・ 『伊勢市史 第八巻 民俗編』（伊勢市、2009）
- ・ 『ものと人間の文化史 67・箱』（法政大学出版局、1991）
- ・ 『すまう 写真でみる日本生活図引 4』（弘文堂、1988）
- ・ 本永義博「召集用状箱」『飛騨市行政資料研究』第2集（2016）
- ・ 美濃加茂市民ミュージアム『蜂屋柿—その歴史と人々展—』（2008）
- ・ 小出鐸男「日本における書籍函の盛衰について〔研究レポート〕」（出版研究 27、1996）
- ・ 太田草子「安部公房研究—「他人の顔」「箱男」における自己と他者—」（工学院大学 研究論叢 52、2018）
- ・ 春日俊彦「人生を深める、ひとりの時間の使い方」『Premium』No.68（マガジンハウス、2019）

## 謝辞

展覧会の開催にあたり、ご指導、ご協力いただきました関係各位に対して、心よりお礼申し上げます。

伊勢河崎商人館、伊勢市情報戦略局、伊勢春慶デザイン工房、  
一宮市尾西歴史民俗資料館、恵那市教育委員会、太田宿中山道  
会館、可児郷土歴史館、木曽町図書館、串原郷土館、漆器店「よ  
し彦」、禅徳寺、曹源寺、中山道みたけ館、名古屋市蓬左文庫、  
日本通運株式会社中部美術品支店、松井屋酒造、みのかも伝承  
料理の会

井上 善博、大海 崇代、神谷 智、久保 禎子、栗谷本 真、竹内 幸熙、  
西山 清美、早川 万年、三宅 唯美、三好 清超、山本 翔麻

○「みなさまから寄せられたハコ」として、貴重なハコを出品  
していただいたみなさまに深くお礼申し上げます。

○展覧会全体のデザインについては、デザイナー・大橋 徹也  
氏に依頼しました。

